

函館市の各種統計資料

※第 2 回函館市基本構想審議会 参考資料

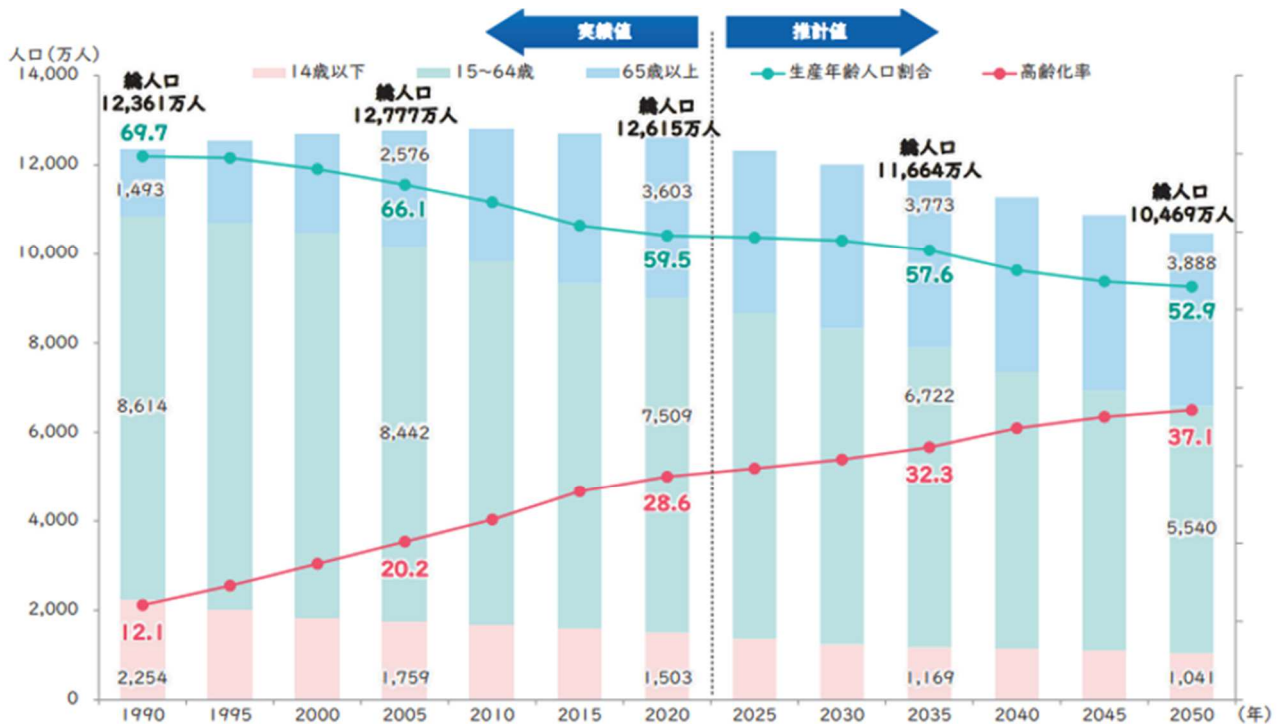
目 次

【図 1 : 日本の人口の推移と長期的な見通し】	P.1
【図 2 : 総人口および年齢 3 区分別人口の推移】	P.2
【図 3 : 女性人口と合計特殊出生率の推移】	P.2
【図 4 : 計画期間における人口の将来推計】	P.3
【図 5 : 総人口および年齢 3 区分別人口の将来推移 (中位)】	P.4
【図 6 : 年齢別転入・転出状況】	P.5
【図 7 : 転入数・転出数の推移】	P.5
【図 8 : 出生数・死亡数の推移】	P.6
【図 9 : 将来人口推計・人口ピラミッド】	P.7
【図 10 : 農業就業者数および経営耕地面積の推移】	P.8
【図 11 : 漁業就業者数および総水揚量の推移】	P.8
【図 12 : 卸売業・小売業の商店数, 従業員数, 商品販売額の推移】	P.9
【図 13 : 製造業の事業所数, 従業員数, 製造品出荷額の推移】	P.9
【図 14 : 職業選択等についてのアンケート結果】	P.10~12
【図 15 : 有効求人倍率】	P.13
【図 16 : 労働力人口の推移】	P.14
【図 17 : 函館公共職業安定所管内の地域別就職状況】	P.15
【図 18 : 観光入込客数推計の推移】	P.16
【図 19 : 全国, 北海道と比較した高齢化率の推移】	P.17
【図 20 : 高齢者の居住状況】	P.18
【図 21 : 出産・子育てについてのアンケート結果】	P.19~21
【図 22 : 学齢前児童数, 保育所・幼稚園等の入所 (園) 児童数と率の推移】	P.22
【図 23 : 小学校の児童数ならびに学校数の推移】	P.22
【図 24 : 医療施設数, 病床数および人口 10 万人あたりの率】	P.23
【図 25 : 要介護 (要支援) 認定者数の推移】	P.23
【図 26 : 身体障害者手帳の交付者数等の比較】	P.24
【図 27 : 交通機関別利用者数の推移】	P.24
【図 28 : 世帯数と町会加入率の推移】	P.25
【図 29 : 種類別空家の推移】	P.26
【図 30 : 公共施設等 用途分類ごとの経過年数別延床面積の割合等】	P.27
【図 31 : 外国人人口の推移】	P.28

【図 3 2 : 各分野における男女の地位の平等感】	・ ・ ・ ・ ・ P.29
【図 3 3 : 地域経済循環図】	・ ・ ・ ・ ・ P.30
【図 3 4 : 関係人口】	・ ・ ・ ・ ・ P.31
【図 3 5 : 今後のまちづくりや魅力等についてのアンケート結果】	・ ・ ・ ・ ・ P.32～40

【図1：日本の人口の推移と長期的な見通し】

検討資料 P.2 2-1-(1) 人口減少・少子高齢化の急速な進行

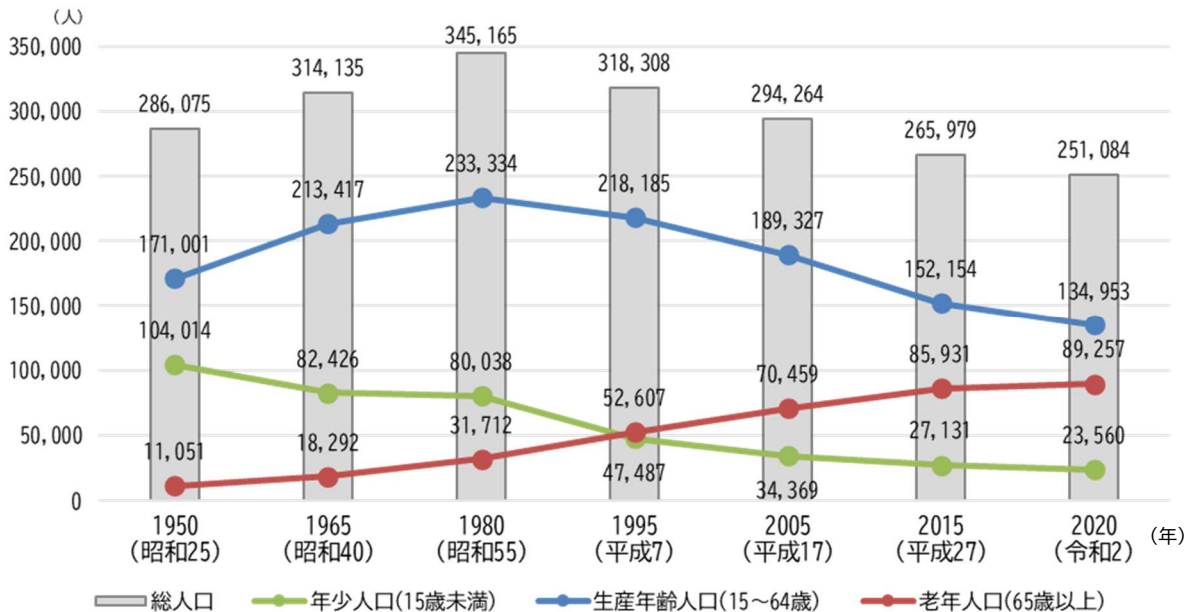


(出典) 厚生労働省「令和7年版 厚生労働白書」24 ページ

日本の総人口は、2008（平成20）年をピークに減少傾向にあります。生産年齢人口の割合は低下し続ける一方で、高齢化率は上昇が見込まれています。

【図 2：総人口および年齢 3 区分別人口の推移】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計

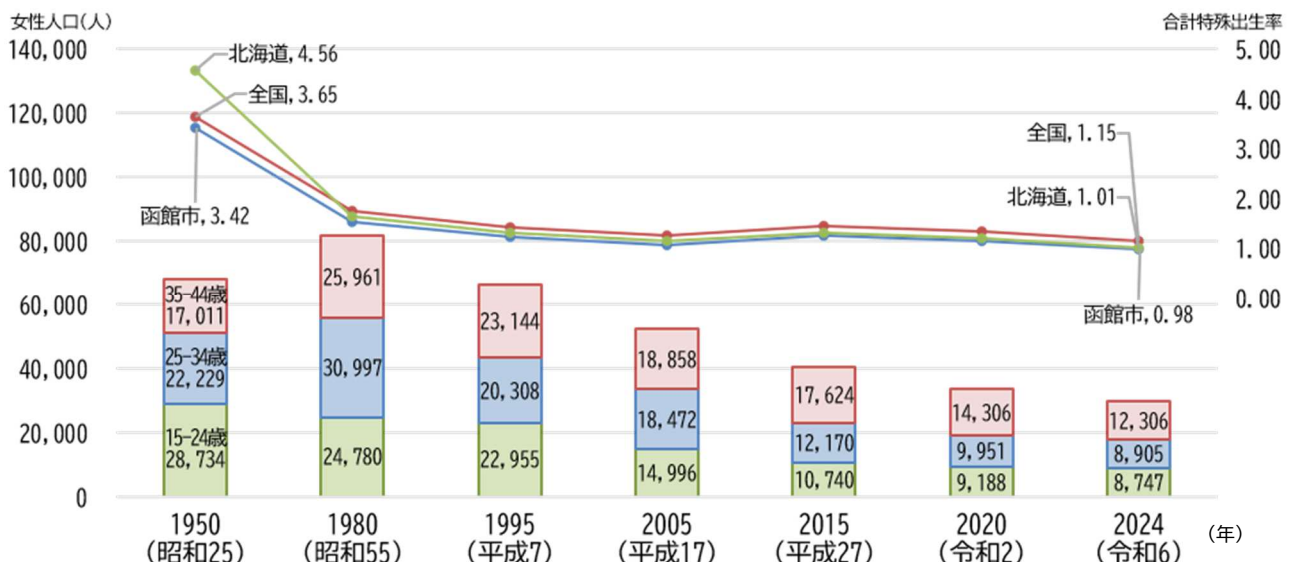


(出典) 総務省「国勢調査」

函館市の総人口は、1980（昭和 55）年をピークに減少しています。年少人口および生産年齢人口が減少する一方で、老年人口は増加を続けています。

【図 3：女性人口と合計特殊出生率の推移】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計



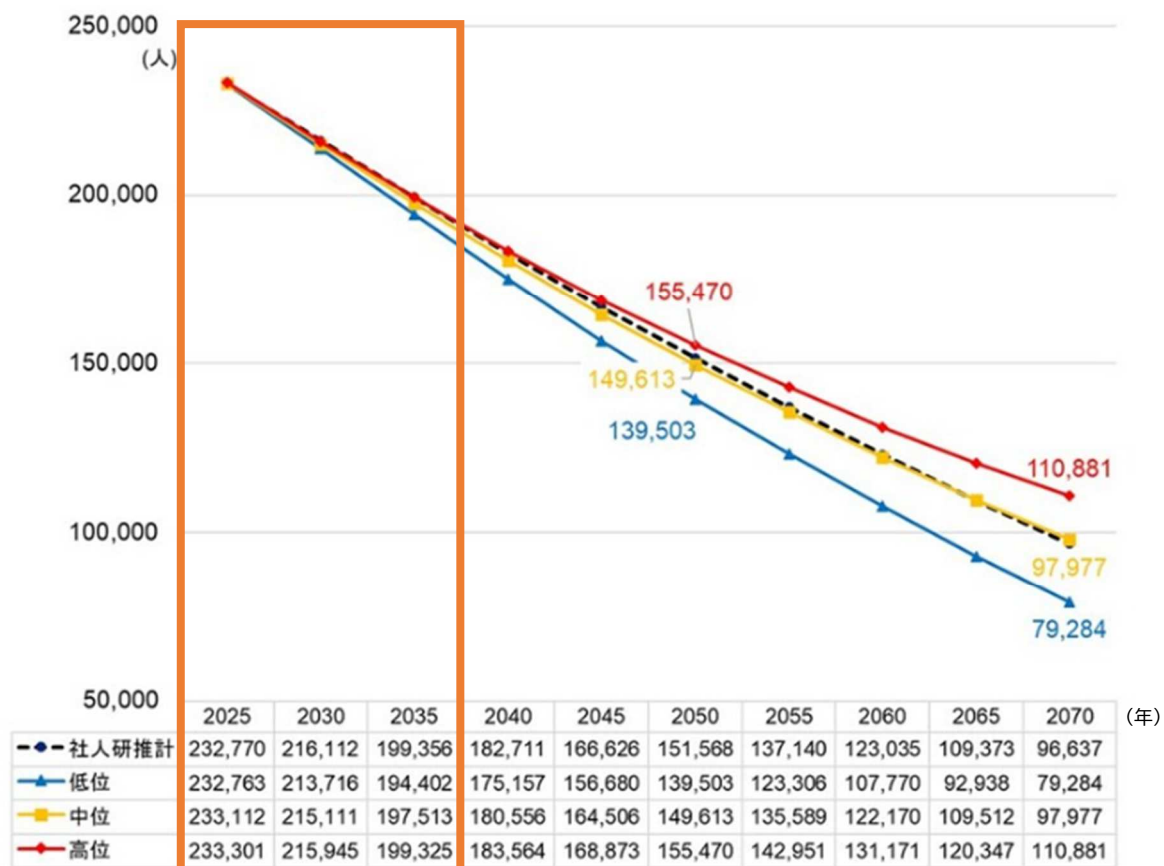
(出典) 【女性人口】総務省「国勢調査」（2024（令和 6）年については函館市「住民基本台帳」）

【合計特殊出生率】函館市「保健所事業概要」

函館市の合計特殊出生率は低下傾向にあり、全国や北海道を下回っています。また、15 歳から 44 歳の女性人口も減少が続いています。

【図 4：計画期間における人口の将来推計】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計



(出典) 函館市「人口ビジョン」17 ページ

函館市の将来人口は、いずれの推計においても減少が続く見込みです。合計特殊出生率や純移動率の改善状況によって、将来の減少幅は異なります。

《推計の考え方》

○ 低位推計

合計特殊出生率、純移動率とも現状のまま推移すると仮定

○ 中位推計

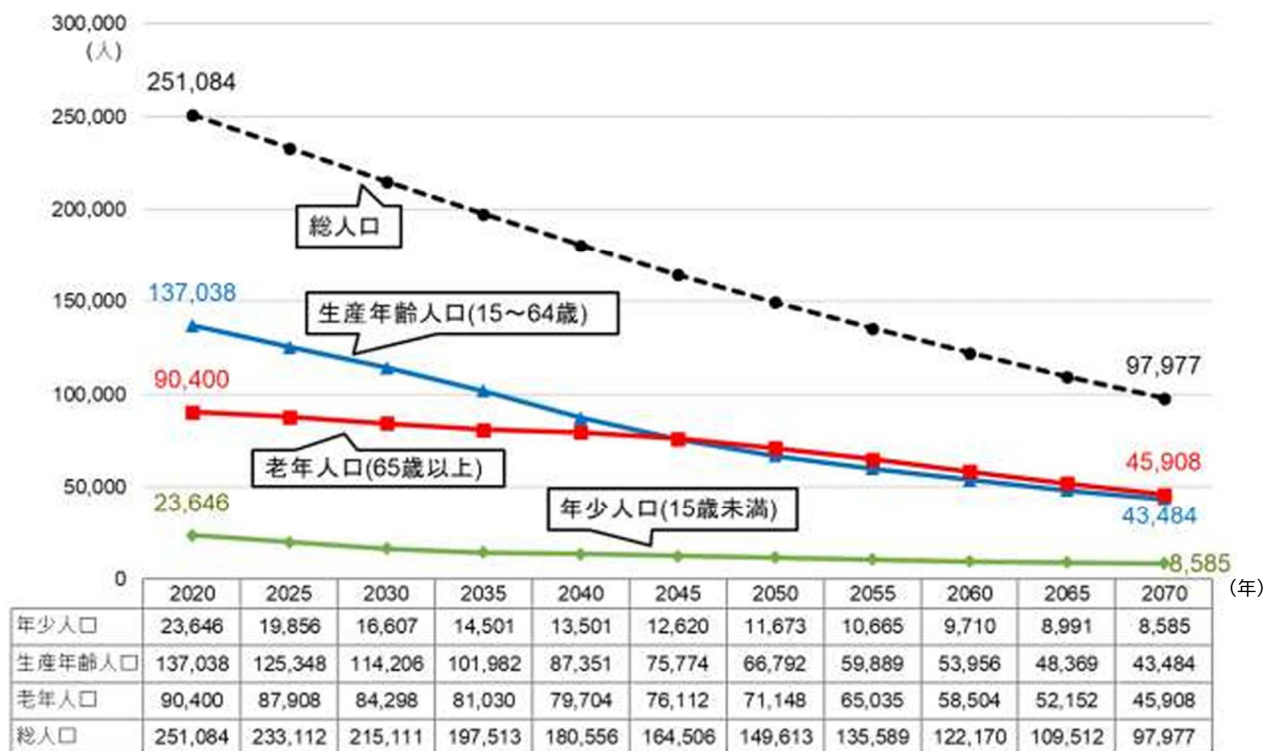
2070（令和 52）年に合計特殊出生率が、本市独自に算出した市民の希望出生率となる 1.77 を実現し、純移動率を 1980（昭和 55）年以降の実績の最高値を達成すると仮定

○ 高位推計

2050（令和 32）年までに中位推計の 2070（令和 52）年の状況を達成し、かつ 2070（令和 52）年までに合計特殊出生率が人口置換水準である 2.07、純移動率のマイナスが解消すると仮定

【図5：総人口および年齢3区分別人口の将来推計（中位）】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計



（出典）函館市「人口ビジョン」19 ページ

函館市の総人口は、今後も減少が見込まれます。生産年齢人口と年少人口は減少を続けますが、生産年齢人口は2050（令和32）年には2020（令和2）年比で2分の1まで減少します。また、老年人口は比較的緩やかな減少で推移します。

【図 6：年齢別転入・転出状況】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計

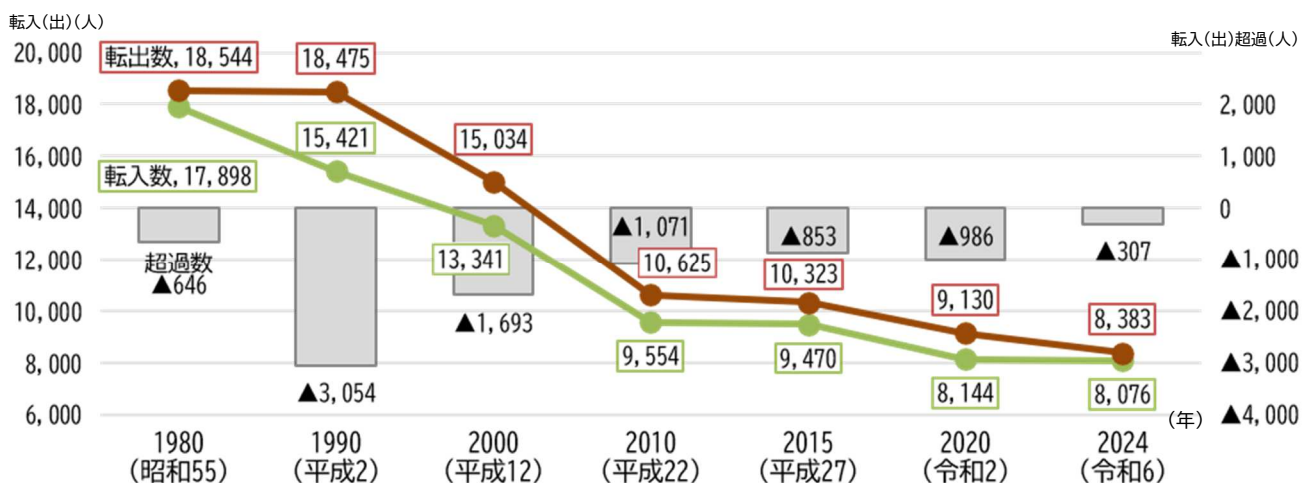


(出典) 函館市「住民基本台帳 (2024 年)」

年齢別の転出入状況を見ると、20 代を中心に転出数が転入数を大きく上回っており、若年層において大幅な転出超過となっています。

【図 7：転入数・転出数の推移】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計

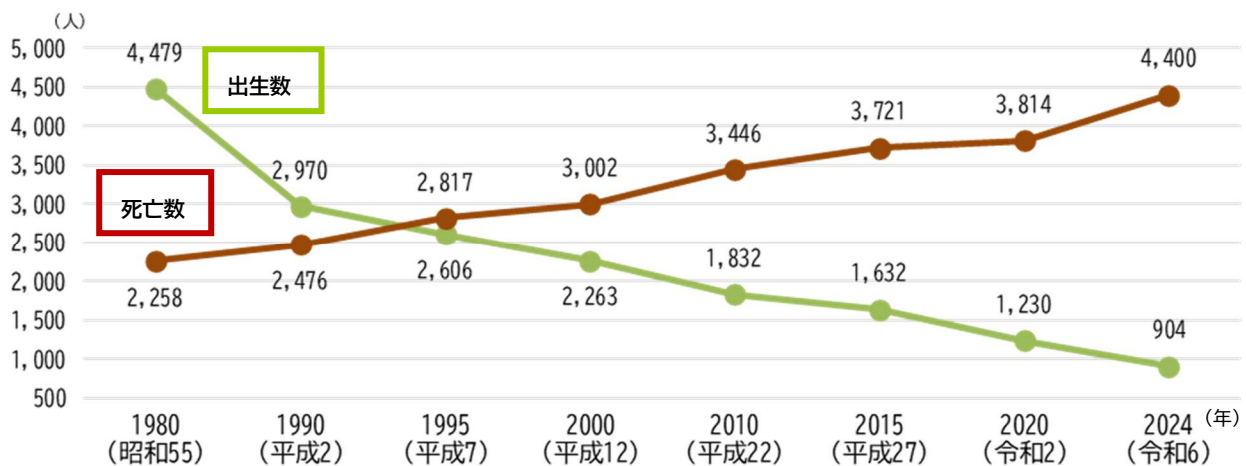


(出典) 函館市「住民基本台帳」

函館市の転入数および転出数はともに減少傾向にあります。一貫して転出数が転入数を上回る転出超過の状態が続いています。

【図 8：出生数・死亡数の推移】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計

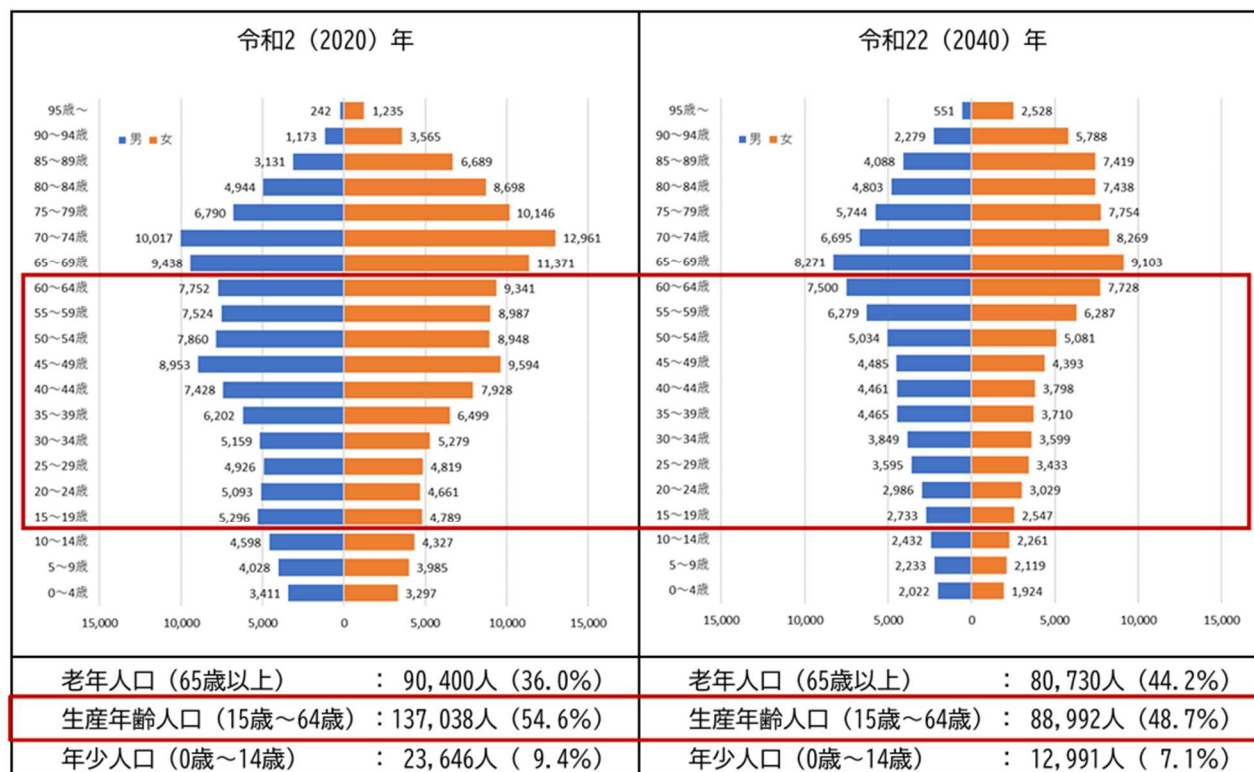


(出典) 函館市「住民基本台帳」

函館市の出生数は減少を続けている一方で、死亡数は増加傾向にあり、死亡数が出生数を上回る自然減が拡大しています。

【図9：将来人口推計・人口ピラミッド】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

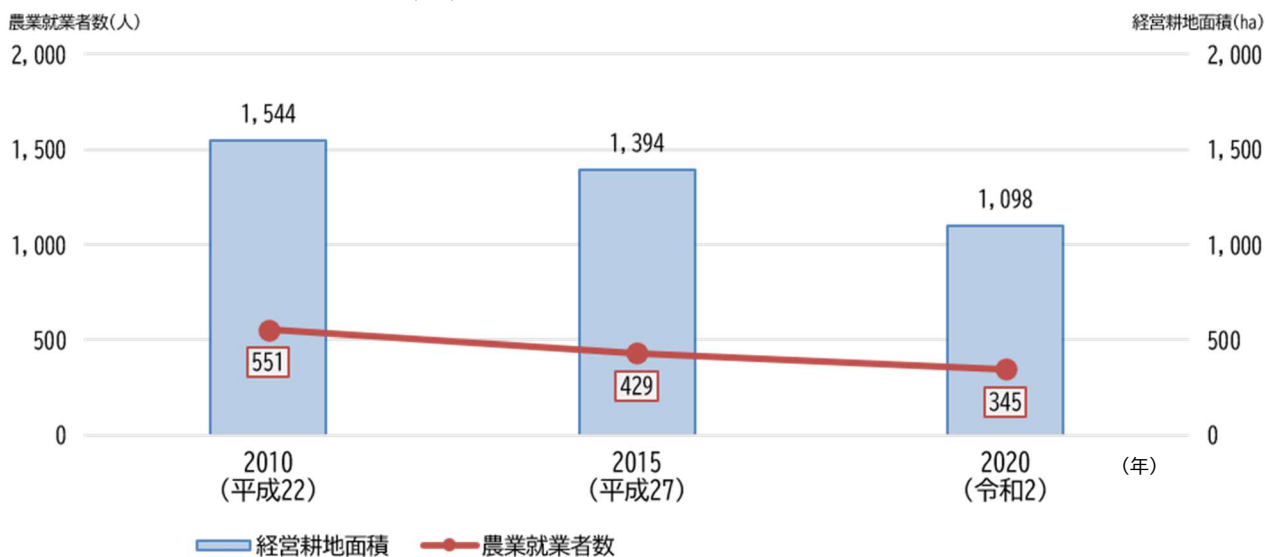


(出典)：総務省「国勢調査(2020年)」，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」(函館市「経済振興プラン」9ページより引用)

地域産業の担い手とも言える生産年齢人口(15歳～64歳)が急激に減少し，令和22(2040)年には全体の5割を下回ることが見込まれています。

【図 1 0：農業就業者数および経営耕地面積の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

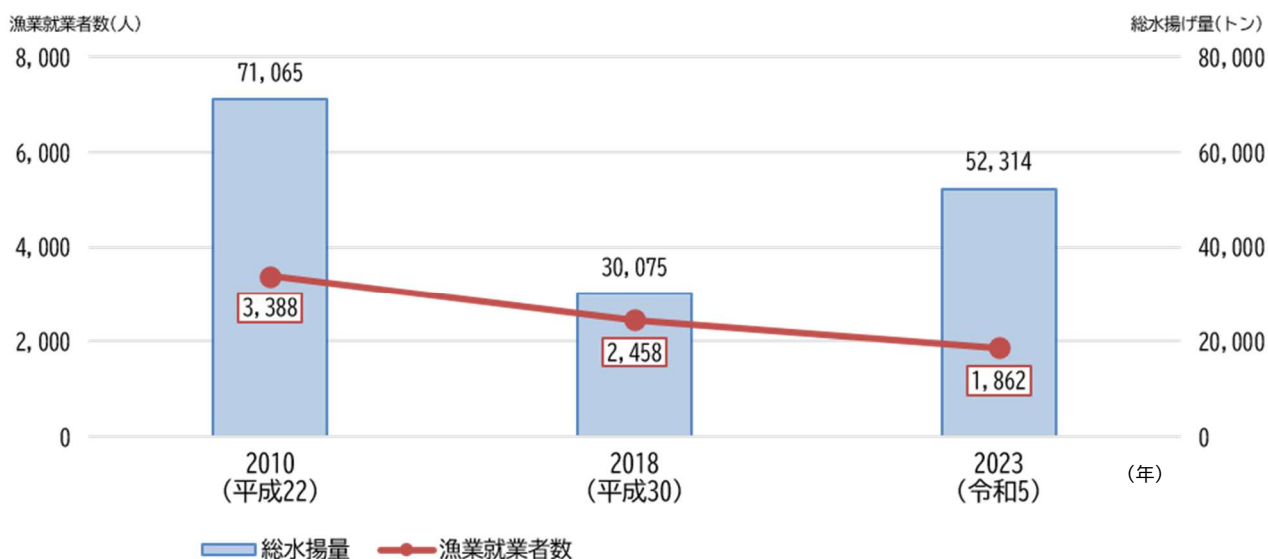


(出典) 農林水産省「農林業センサス」

函館市の農業就業者数および経営耕地面積は、一貫して減少傾向にあります。

【図 1 1：漁業就業者数および総水揚量の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業



(出典) 【総水揚量】北海道水産現勢

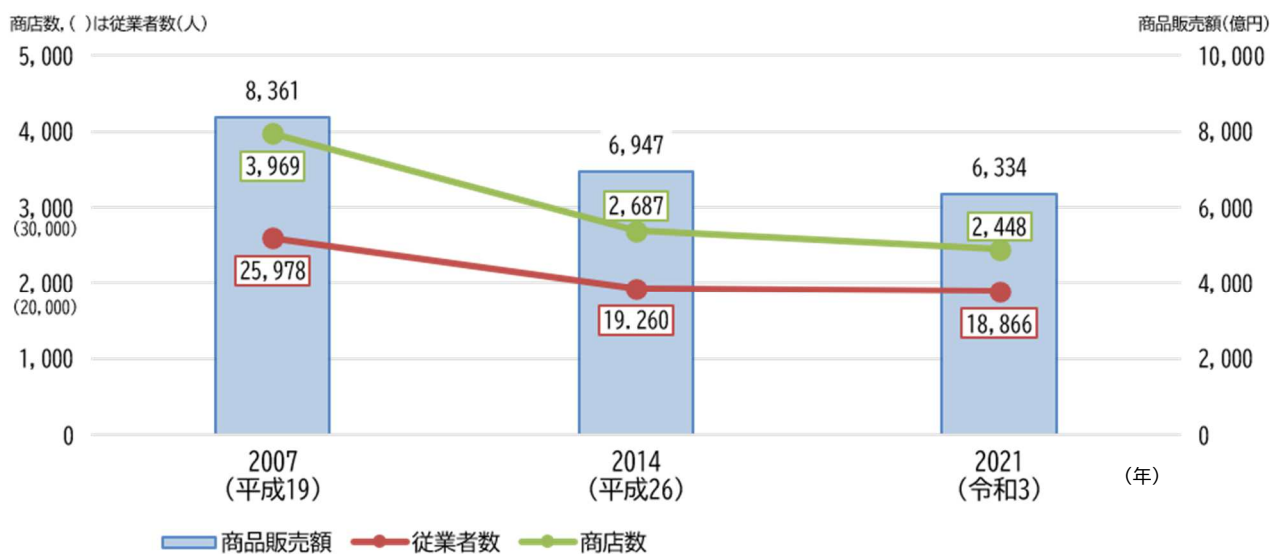
【漁業就業者数】総務省「国勢調査（2010年）」

農林水産省「漁業センサス」（2018年，2023年）

函館市の漁業就業者数は減少を続けており、総水揚量についても減少傾向にあります。

【図 1 2：卸売業・小売業の商店数，従業員数，商品販売額の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

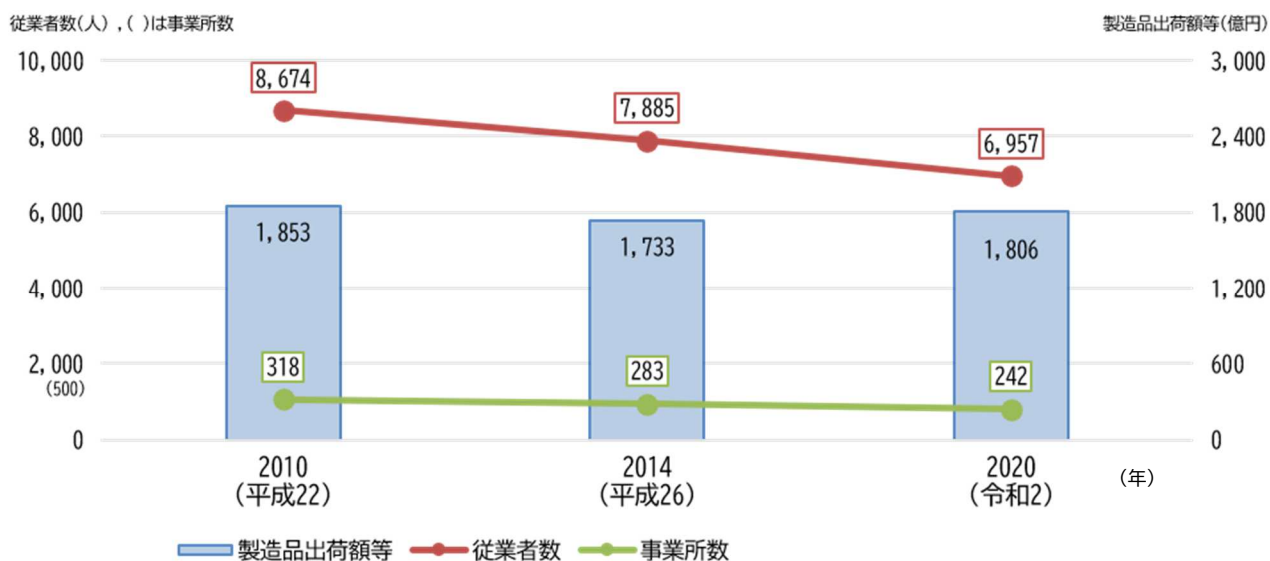


(出典) 経済産業省「商業統計」「経済センサス」

函館市の卸売業・小売業における商店数，従業員数，商品販売額はいずれも，減少傾向が続いています。

【図 1 3：製造業の事業所数，従業員数，製造品出荷額等の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業



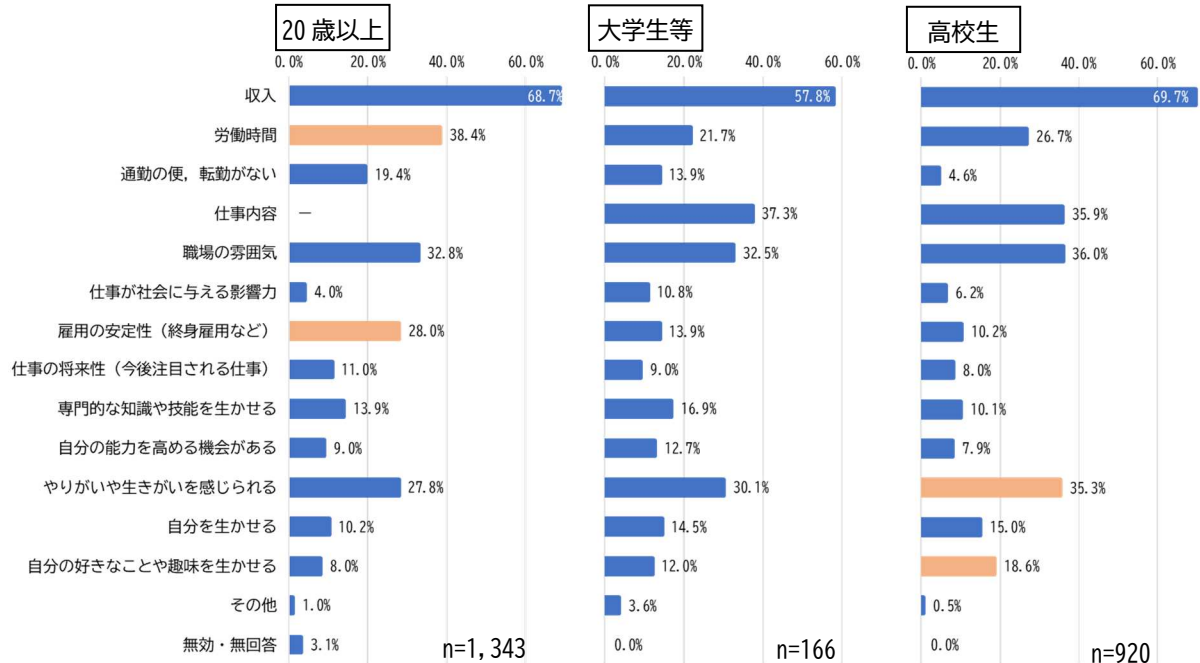
(出典) 経済産業省「工業統計」「経済センサス」

函館市の製造業における事業所数と従業員数は，一貫して減少を続けていますが，製造品出荷額等は，近年横ばいの状態が続いています。

【図 1 4：職業選択等についてのアンケート結果】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

職業を選択する際に重視した（したい）点について、あなたの考えに最も近いものを3つまで選んで番号に○をつけてください。（複数回答）



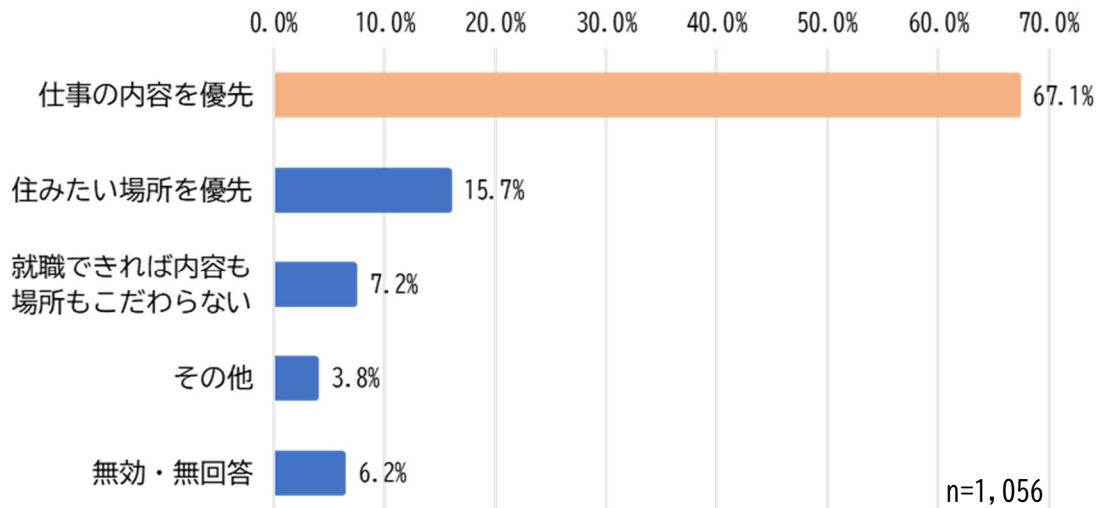
項目	20歳以上 (n=1,343)		大学生等 (n=166)		高校生 (n=920)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
収入	923人	68.7%	96人	57.8%	641人	69.7%
労働時間	516人	38.4%	36人	21.7%	246人	26.7%
通勤の便、転勤がない	261人	19.4%	23人	13.9%	42人	4.6%
仕事内容			62人	37.3%	330人	35.9%
職場の雰囲気	440人	32.8%	54人	32.5%	331人	36.0%
仕事に社会に与える影響力	54人	4.0%	18人	10.8%	57人	6.2%
雇用の安定性（終身雇用など）	376人	28.0%	23人	13.9%	94人	10.2%
仕事の将来性（今後注目される仕事）	148人	11.0%	15人	9.0%	74人	8.0%
専門的な知識や技能を生かせる	187人	13.9%	28人	16.9%	93人	10.1%
自分の能力を高める機会がある	121人	9.0%	21人	12.7%	73人	7.9%
やりがいや生きがいを感じられる	374人	27.8%	50人	30.1%	325人	35.3%
自分を生かせる	137人	10.2%	24人	14.5%	138人	15.0%
自分の好きなことや趣味を生かせる	107人	8.0%	20人	12.0%	171人	18.6%
その他	14人	1.0%	6人	3.6%	5人	0.5%
無効・無回答	42人	3.1%	0人	0.0%	0人	0.0%

（出典）函館市「令和6年度 地方創生に関するアンケート調査

地域幸福度（Well-Being）指標に関するアンケート調査 結果報告書」32 ページ

すべての区分で「収入」が最も高くなっていますが、20歳以上では「労働時間」と「雇用の安定性（終身雇用など）」、高校生では「やりがいや生きがいを感じられる」と「自分の好きなことや趣味を生かせる」が、他の区分と比較して高くなっています。

就業した（する）際に重視した（したい）点について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。



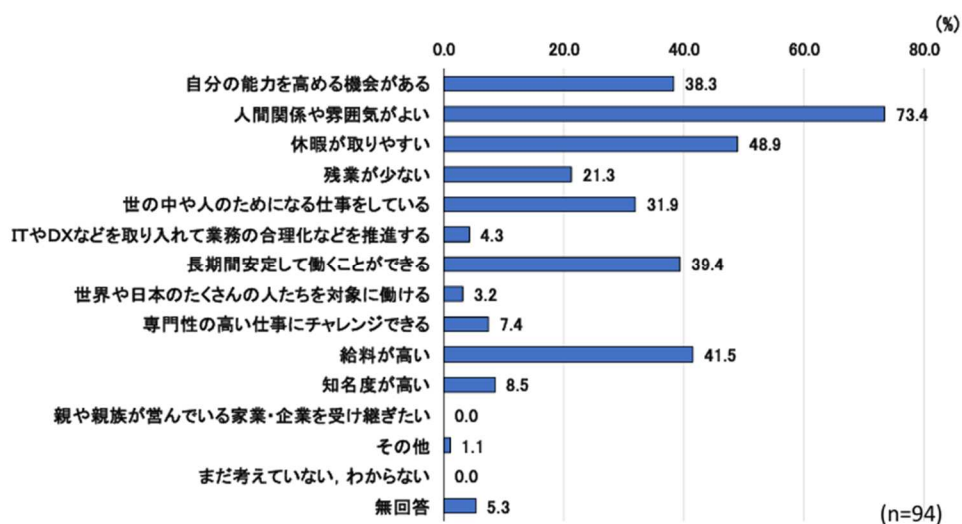
区分	仕事の内容を優先	住みたい場所を優先	就職できれば 内容も場所も こだわらない	その他	無効・ 無回答	合計
20 歳以上	709人 67.1%	166人 15.7%	76人 7.2%	40人 3.8%	65人 6.2%	1,056人 100%

※ インターネット上の調査で、設定の不備により設問が表示されなかった 287 名分の回答を除く
 (出典) 函館市「令和 6 年度 地方創生に関するアンケート調査
 地域幸福度 (Well-Being) 指標に関するアンケート調査 結果報告書」33 ページ

「仕事の内容を優先」が 67.1% と最も高く、次の「住みたい場所を優先」の 15.7% を大幅に上回っています。

あなたは将来どんな職場で働きたいですか。(複数回答) ※卒業後の進路で就職を選択した方のみ

区分	総数	
自分の能力を高める機会がある	36 人	38.3%
人間関係や雰囲気がよい	69 人	73.4%
休暇が取りやすい	46 人	48.9%
残業が少ない	20 人	21.3%
世の中や人のためになる仕事をしている	30 人	31.9%
ITやDXなどを取り入れて業務の合理化などを推進する	4 人	4.3%
長期間安定して働くことができる	37 人	39.4%
世界や日本のたくさんの人たちを対象に働ける	3 人	3.2%
専門性の高い仕事にチャレンジできる	7 人	7.4%
給料が高い	39 人	41.5%
知名度が高い	8 人	8.5%
親や親族が営んでいる家業・企業を受け継ぎたい	0 人	0.0%
その他	1 人	1.1%
まだ考えていない、わからない	0 人	0.0%
無回答	5 人	5.3%
合計	305 人	

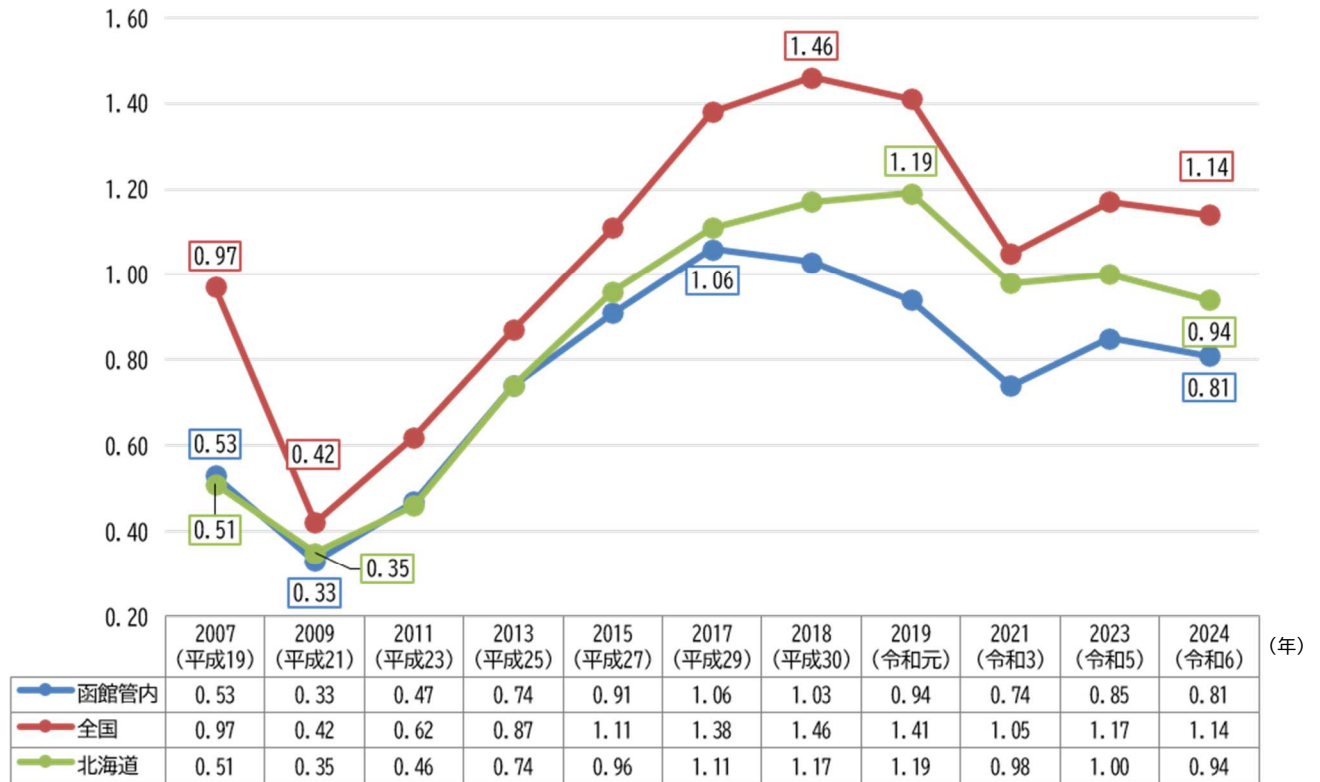


(出典) 函館市「令和4年度 若者の地元就職促進事業調査結果報告書」14 ページ

若者が将来働きたい職場は、「人間関係や雰囲気がよい職場」が73.4%と最も高く、次いで「休暇が取りやすい職場」が48.9%、「給料が高い職場」が41.5%となっています。

【図 1 5：有効求人倍率】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

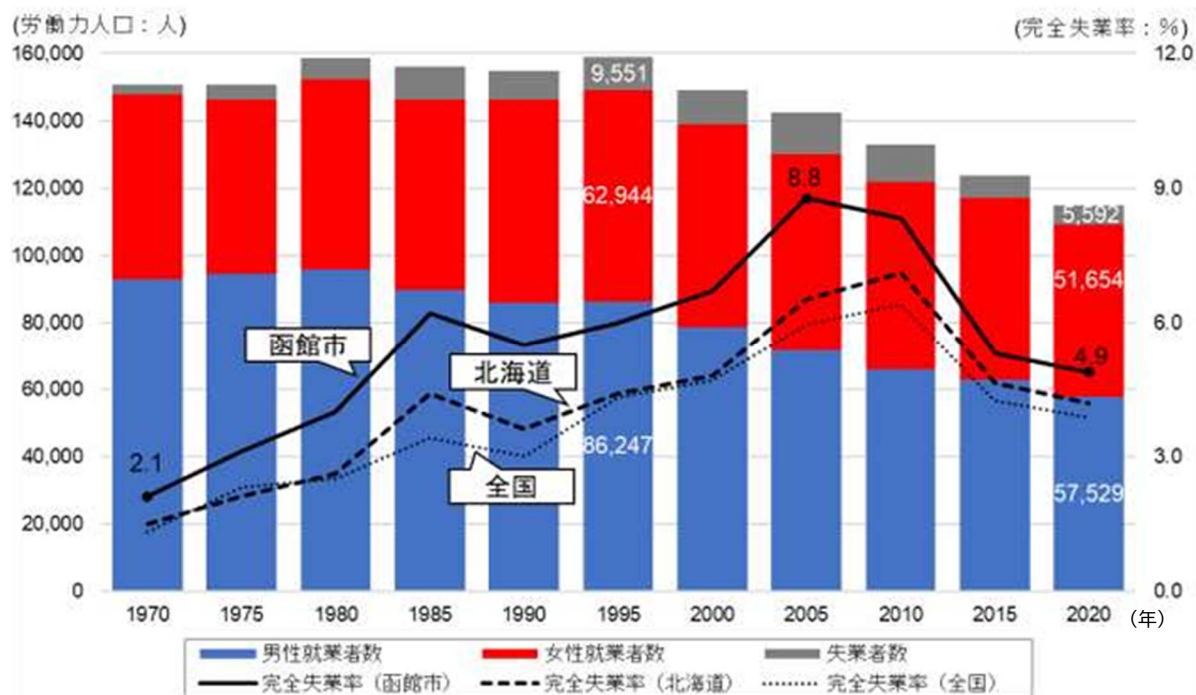


(出典) 北海道労働局「雇用ニュースはこだて」

函館公共職業安定所管内の有効求人倍率は、全国や北海道を下回る水準で推移しており、近年は1倍を下回る状況が続いています。

【図 1 6：労働力人口の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業



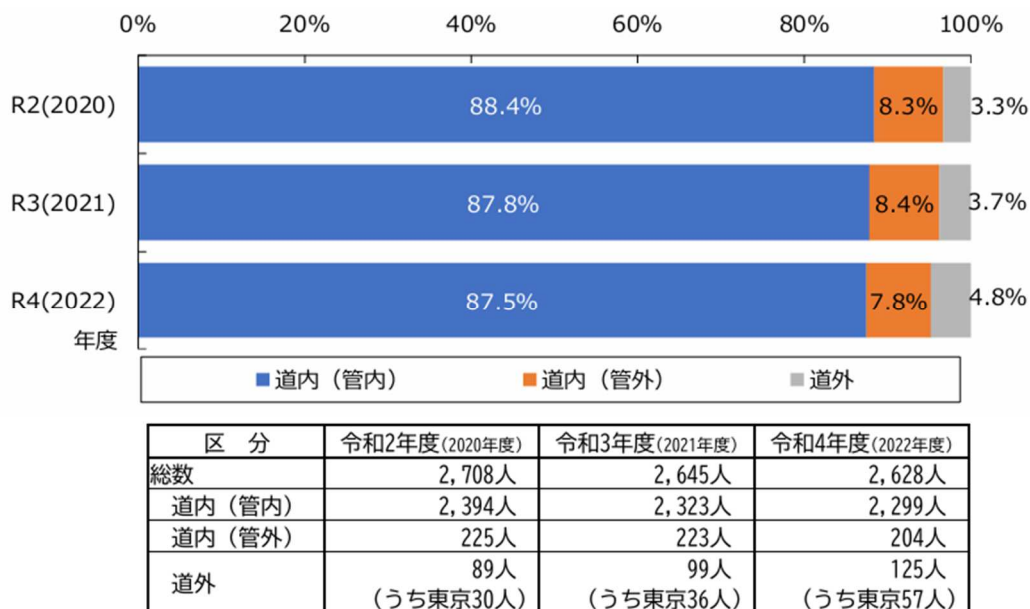
(出典) 総務省「国勢調査」(函館市「人口ビジョン」6ページより引用)

函館市の労働力人口(15歳以上の人口のうち「就業者」と「完全失業者」を合わせたもの)は、1995(平成7)年以降減少を続けています。一方で、完全失業率は全国や北海道を上回る水準で推移しています。

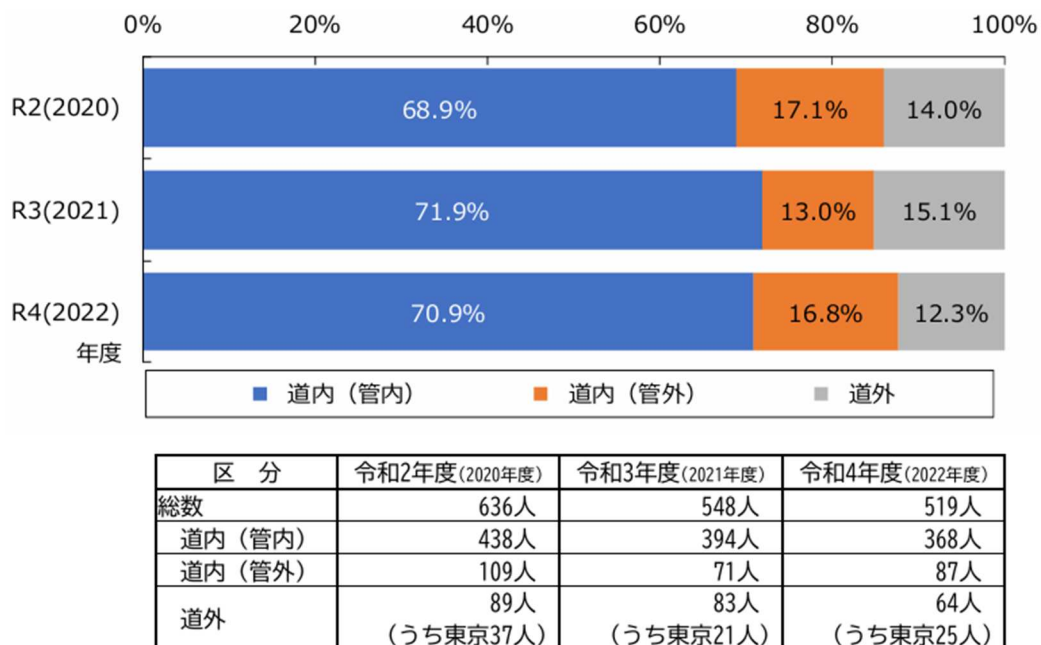
【図 1 7：函館公共職業安定所管内の地域別就職状況】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

・函館公共職業安定所管内の地域別就職状況〔常用〕



・函館公共職業安定所管内の地域別就職状況〔新規学校卒業者(高等学校)〕

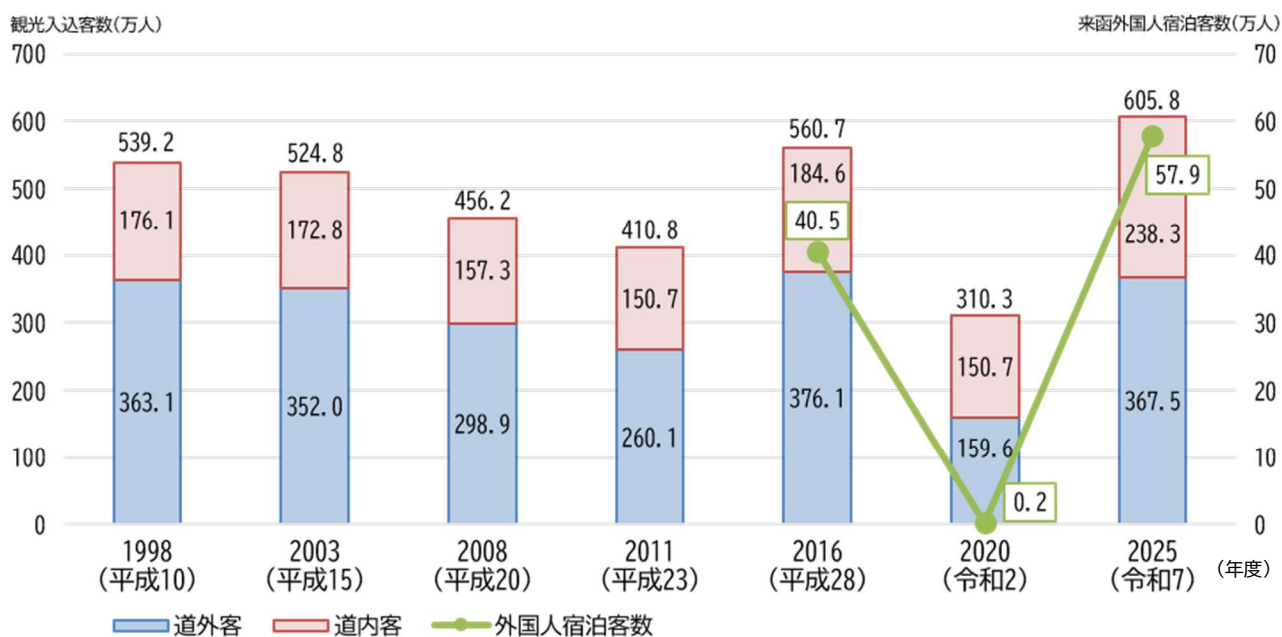


(出典) 函館市「統計書 令和5年版」(函館市「経済振興プラン」15ページより引用)

新規学校卒業者(高等学校)の地域別就職状況は、道内(管内)への就職率が70%前後で推移しており、常用と比較すると地元への就職率が低い状況にあります。

【図 1 8：観光入込客数推計の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

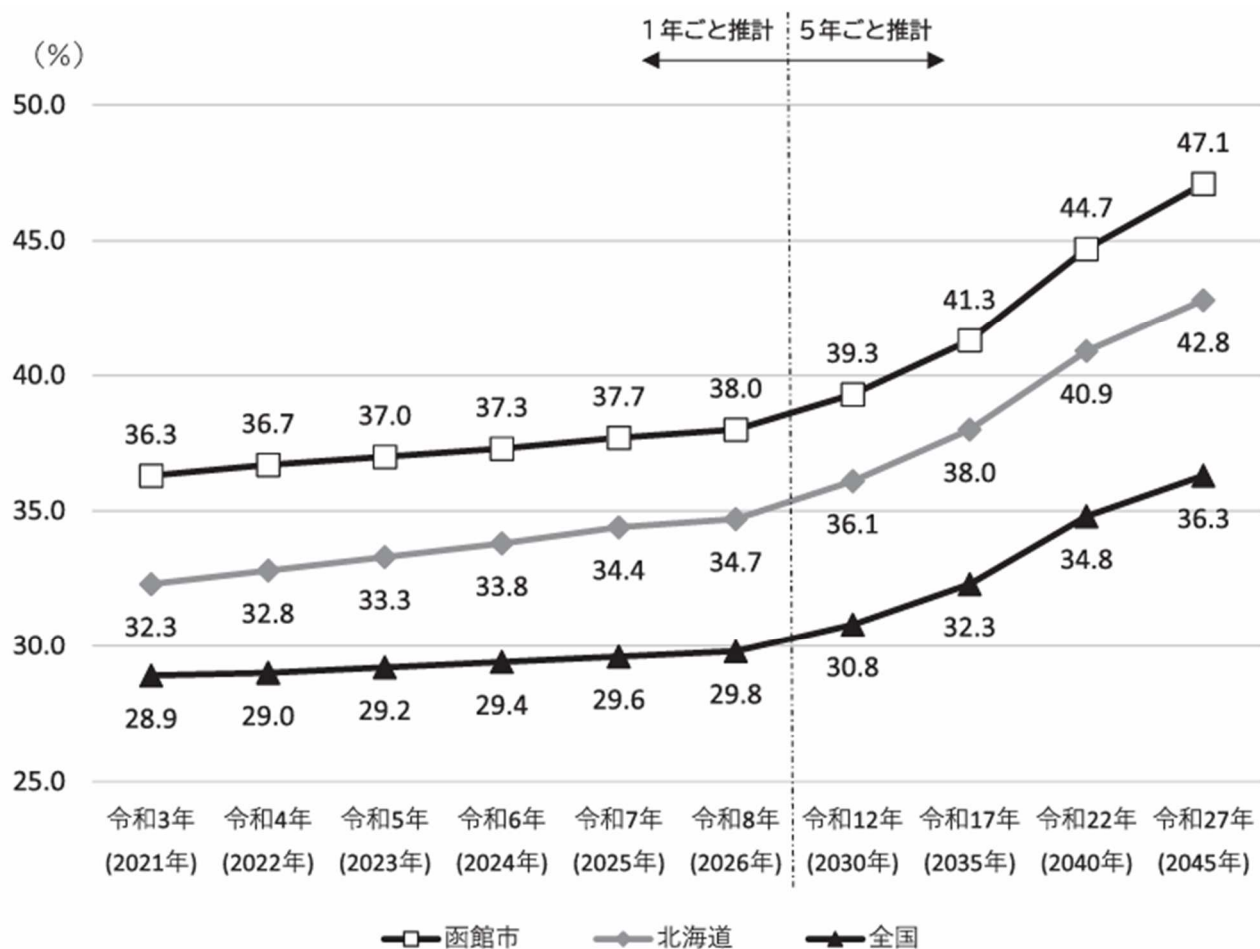


(出典) 函館市「来函観光入込客数推計」

観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により 2020（令和 2）年度に大きく減少しましたが、その後回復し、2025（令和 7）年度には 2 年連続で過去最多を更新しました。

【図 1 9：全国，北海道と比較した高齢化率の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

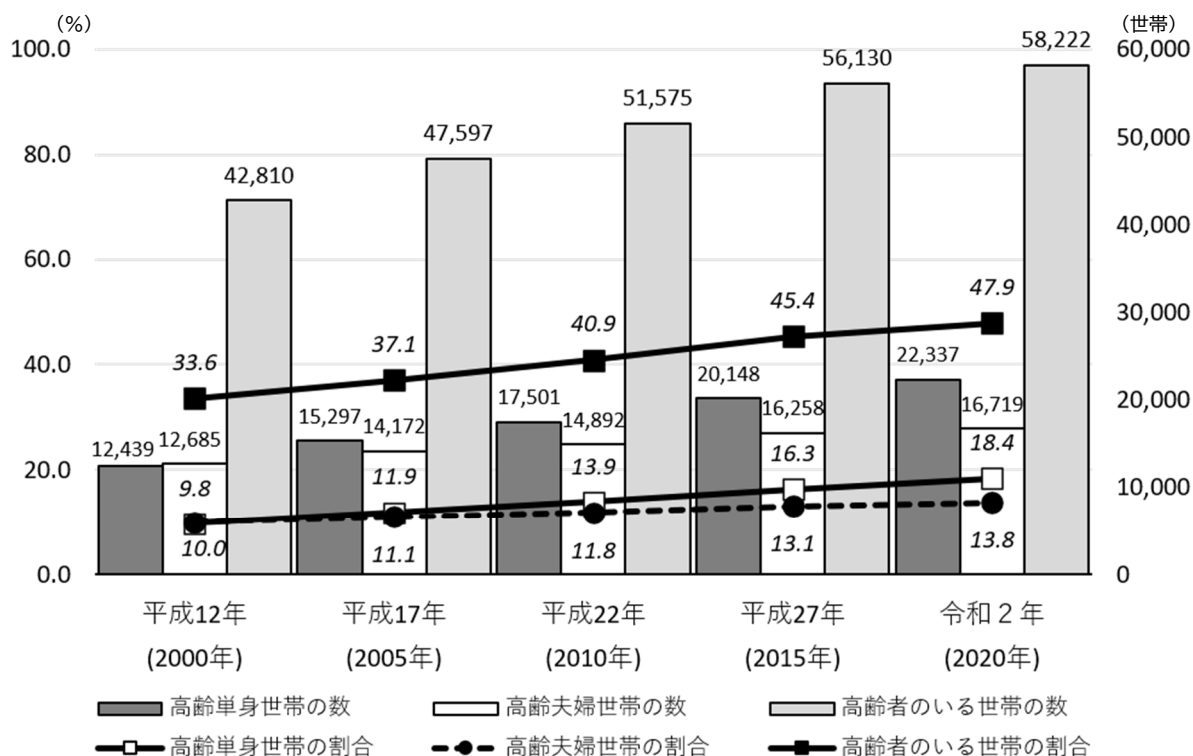


(出典) 函館市，国立社会保障・人口問題研究所による推計値（全国：令和 5 年，全道：平成 30 年（2018 年）推計）（函館市「第 10 次函館市高齢者保健福祉計画・第 9 期函館市介護保険事業計画（令和 6（2024）年度～令和 8（2026）年度）」 6 ページより引用）

函館市の高齢化率は全国，北海道と比べて高く，今後も上昇が見込まれています。

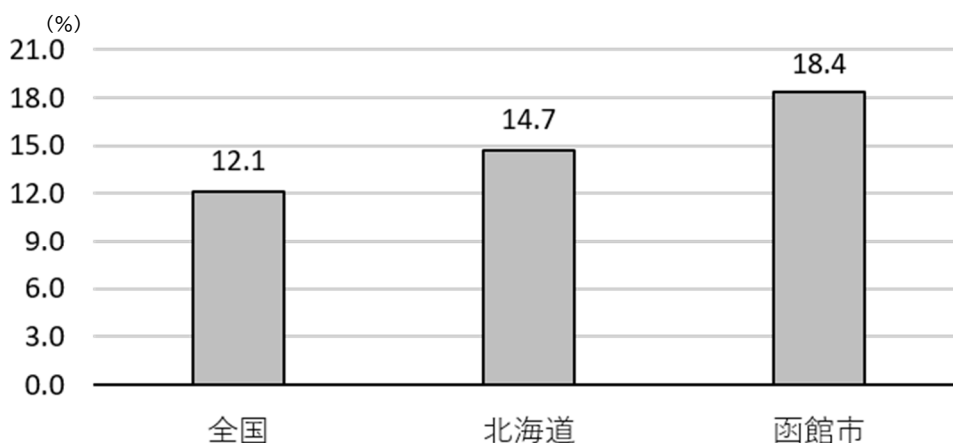
【図 20：高齢者の居住状況】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活



(出典) 総務省「国勢調査」(函館市「第 10 次函館市高齢者保健福祉計画・第 9 期函館市介護保険事業計画 (令和 6 (2024) 年度～令和 8 (2026) 年度)」10 ページより引用)

《一般世帯に占める高齢単身世帯の割合の比較》



(出典) 総務省「国勢調査 (2020 年)」(函館市「第 10 次函館市高齢者保健福祉計画・第 9 期函館市介護保険事業計画 (令和 6 (2024) 年度～令和 8 (2026) 年度)」10 ページより引用)

函館市の高齢単身世帯の割合は増加傾向にあり、令和 2 (2020) 年国勢調査の結果では、一般世帯の 18.4% を高齢単身世帯が占め、国や北海道を上回る高い水準にあります。

【図 2 1：出産・子育てについてのアンケート結果】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

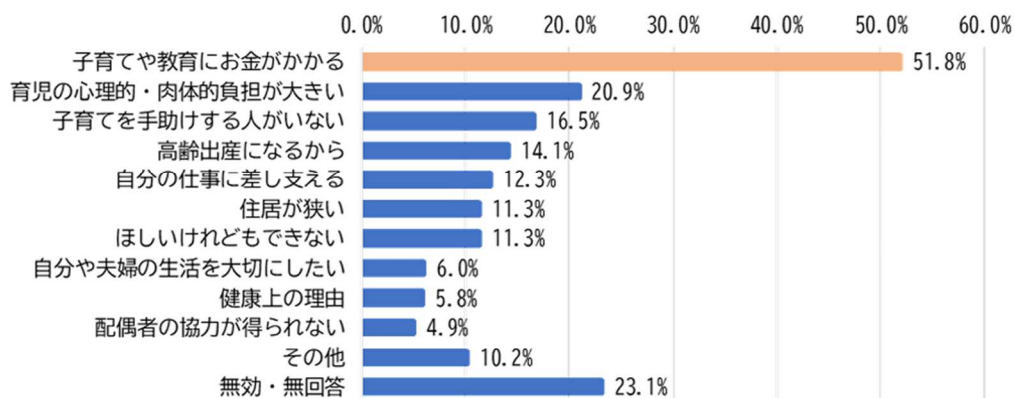
※函館市「令和 6 年度 地方創生に関するアンケート調査 地域幸福度 (Well-Being) 指標に関するアンケート調査 結果報告書」(20~23 ページ) より一部抜粋

「理想的な子どもの数」が、「現在の子どもの数」より多い理由または「理想的な子どもの数」が 0 人である理由は何ですか。

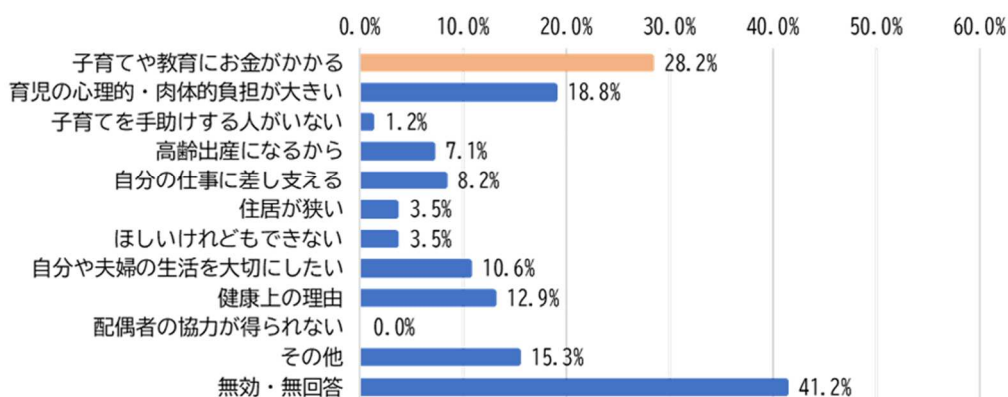
あなたの考えに近いものを 3 つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)

(回答対象者：2-②で、「理想的な子どもの数」が、「現在の子どもの数」より多い人または「理想的な子どもの数」が 0 人の人)

【「理想的な子どもの数」が「現在の子どもの数」より多い人 (n=689)】

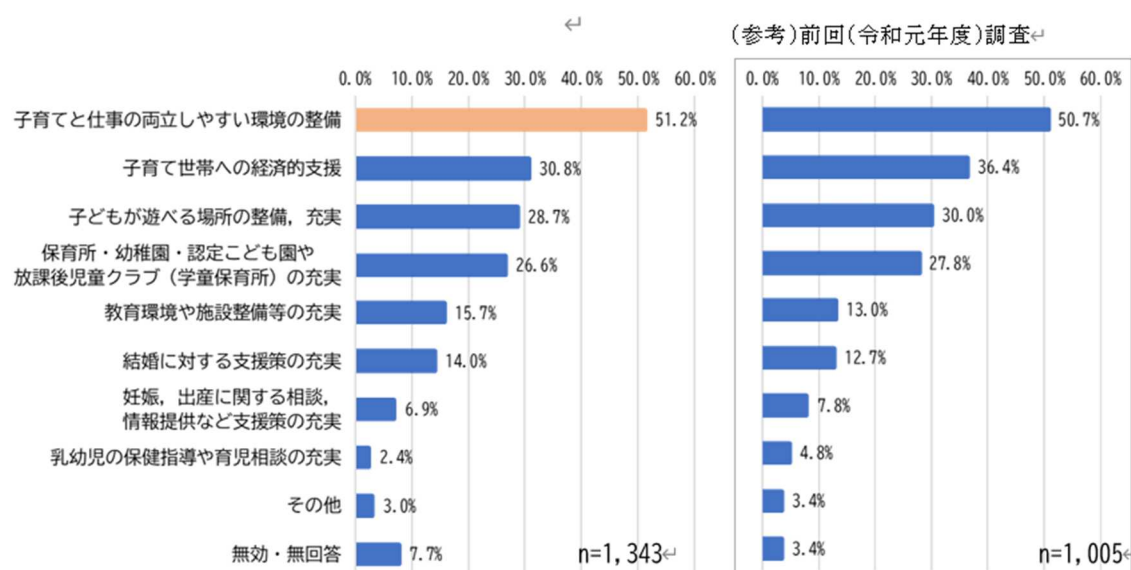


【「理想的な子どもの数」が 0 人の人 (n=85)】

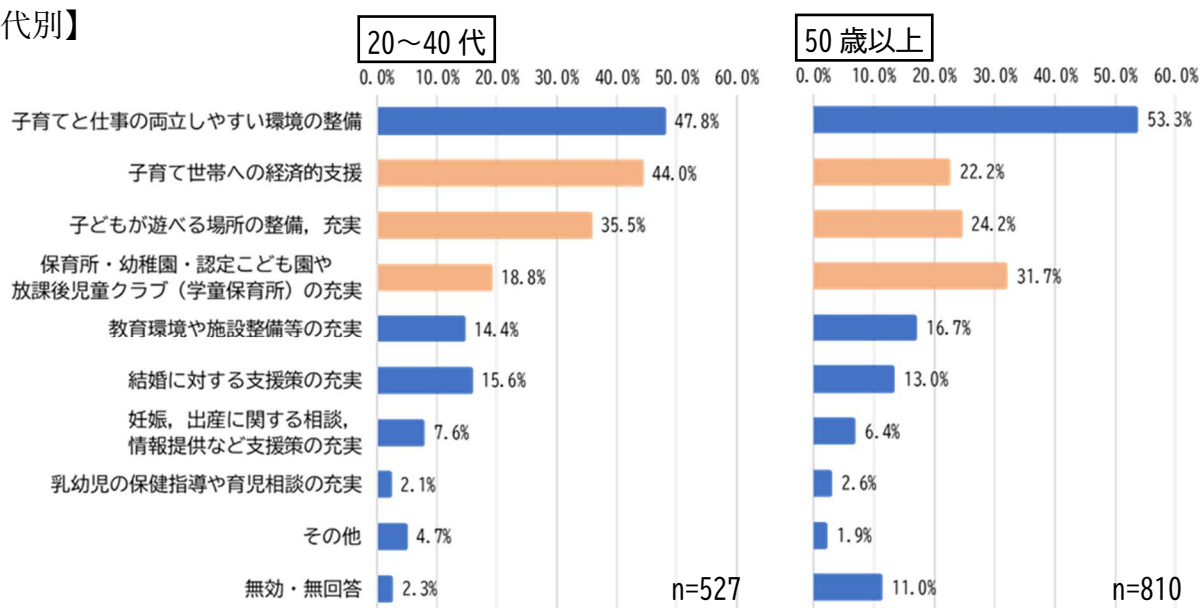


「理想的な子どもの数」が「現在の子どもの数」より多い人では、「子育てや教育にお金がかかる」が 51.8%と最も高くなっています。「理想的な子どもの数」が 0 人の人でも、「子育てや教育にお金がかかる」が 28.2%と、無効・無回答を除き最も高くなっていますが、前者と比べると 20 ポイント以上低くなっています。

安心して子どもを産み、子育てできる環境を整備するために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。主なものを2つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)



【年代別】



「子育てと仕事の両立しやすい環境の整備」が51.2%と最も高く、次に「子育て世帯への経済的支援」が30.8%、「子どもが遊べる場所の整備, 充実」が28.7%と続いています。

年代別では、「子育て世帯への経済的支援」や「子どもが遊べる場所の整備, 充実」を選択する割合が20~40代で高く、50歳以上が低くなっており、それに対して「保育所・幼稚園・認定こども園や放課後児童クラブ(学童保育所)の充実」については、20~40代で低く、50歳以上で高くなっているなど、世代間で差が生じています。

【「理想的な子どもの数」が、「現在の子どもの数」より多い人(n=689人)が思っている、安心して子どもを産み、子育てできる環境を整備するために、取り組むべきこと。(男女別、年代別)】

《男性》

年代	子育てと仕事の両立しやすい環境の整備	子育て世帯への経済的支援	子どもが遊べる場所の整備、充実	保育所・幼稚園・認定こども園や放課後児童クラブ(学童保育所)の充実	教育環境や施設整備等の充実	結婚に対する支援策の充実	妊娠、出産に関する相談、情報提供など支援策の充実	乳幼児の保健指導や育児相談の充実	その他	n
20代	13人 36.1%	15人 41.7%	12人 33.3%	12人 33.3%	2人 5.6%	10人 27.8%	4人 11.1%	0人 0.0%	1人 2.8%	36人
30代	31人 46.3%	35人 52.2%	24人 35.8%	9人 13.4%	11人 16.4%	15人 22.4%	4人 6.0%	0人 0.0%	5人 7.5%	67人
40代	26人 52.0%	13人 26.0%	16人 32.0%	11人 22.0%	10人 20.0%	12人 24.0%	7人 14.0%	3人 6.0%	0人 0.0%	50人
50代	22人 44.9%	14人 28.6%	14人 28.6%	13人 26.5%	12人 24.5%	10人 20.4%	5人 10.2%	0人 0.0%	1人 2.0%	49人
60代	28人 59.6%	16人 34.0%	15人 31.9%	12人 25.5%	8人 17.0%	6人 12.8%	1人 2.1%	2人 4.3%	0人 0.0%	47人
70代	30人 53.6%	24人 42.9%	13人 23.2%	25人 44.6%	3人 5.4%	12人 21.4%	3人 5.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	56人
80歳以上	13人 76.5%	5人 29.4%	1人 5.9%	5人 29.4%	6人 35.3%	2人 11.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	17人
20歳以上	163人 50.6%	122人 37.9%	95人 29.5%	87人 27.0%	52人 16.1%	67人 20.8%	24人 7.5%	5人 1.6%	7人 2.2%	322人

《女性》

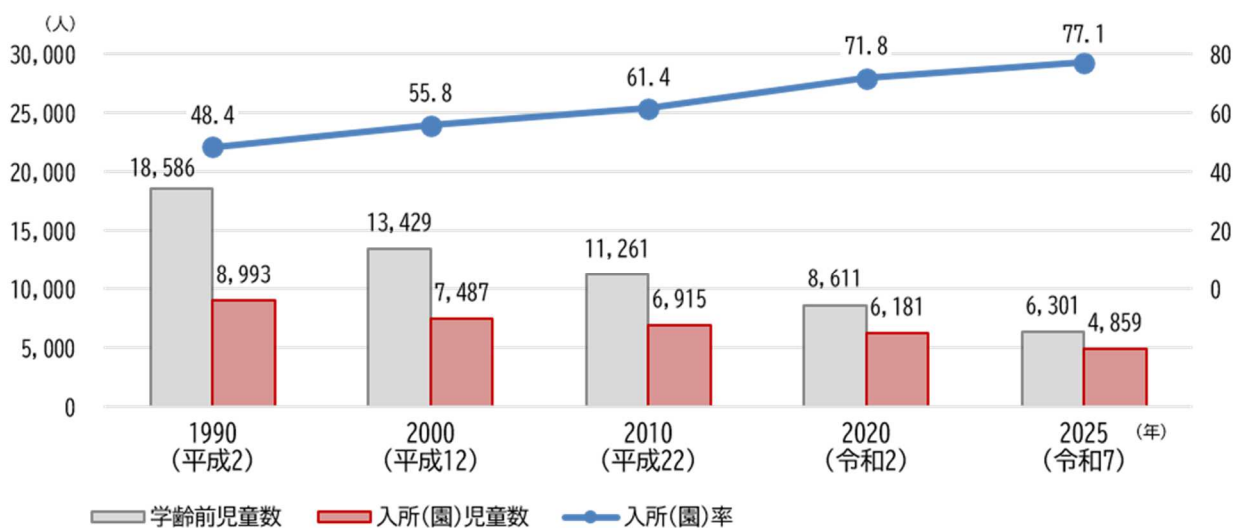
年代	子育てと仕事の両立しやすい環境の整備	子育て世帯への経済的支援	子どもが遊べる場所の整備、充実	保育所・幼稚園・認定こども園や放課後児童クラブ(学童保育所)の充実	教育環境や施設整備等の充実	結婚に対する支援策の充実	妊娠、出産に関する相談、情報提供など支援策の充実	乳幼児の保健指導や育児相談の充実	その他	n
20代	31人 47.0%	34人 51.5%	24人 36.4%	13人 19.7%	4人 6.1%	10人 15.2%	7人 10.6%	1人 1.5%	2人 3.0%	66人
30代	28人 40.0%	34人 48.6%	29人 41.4%	11人 15.7%	14人 20.0%	10人 14.3%	4人 5.7%	3人 4.3%	1人 1.4%	70人
40代	38人 58.5%	22人 33.8%	19人 29.2%	16人 24.6%	12人 18.5%	5人 7.7%	5人 7.7%	1人 1.5%	1人 1.5%	65人
50代	25人 45.5%	12人 21.8%	19人 34.5%	17人 30.9%	13人 23.6%	3人 5.5%	4人 7.3%	6人 10.9%	2人 3.6%	55人
60代	34人 68.0%	5人 10.0%	19人 38.0%	17人 34.0%	12人 24.0%	4人 8.0%	2人 4.0%	2人 4.0%	0人 0.0%	50人
70代	23人 60.5%	9人 23.7%	2人 5.3%	19人 50.0%	5人 13.2%	4人 10.5%	4人 10.5%	2人 5.3%	1人 2.6%	38人
80歳以上	19人 82.6%	3人 13.0%	4人 17.4%	9人 39.1%	1人 4.3%	3人 13.0%	4人 17.4%	0人 0.0%	1人 4.3%	23人
20歳以上	198人 54.0%	119人 32.4%	116人 31.6%	102人 27.8%	61人 16.6%	39人 10.6%	30人 8.2%	15人 4.1%	8人 2.2%	367人

男女ともに20代と30代は「子育て世帯への経済的支援」が最も高くなっており、40代以降は「子育てと仕事の両立しやすい環境の整備」が最も高くなっています。

また、「結婚に対する支援策の充実」を選択する割合は、女性に比べて男性が高くなっています。

【図 2 2：学齢前児童数，保育所・幼稚園等の入所（園）児童数と率の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

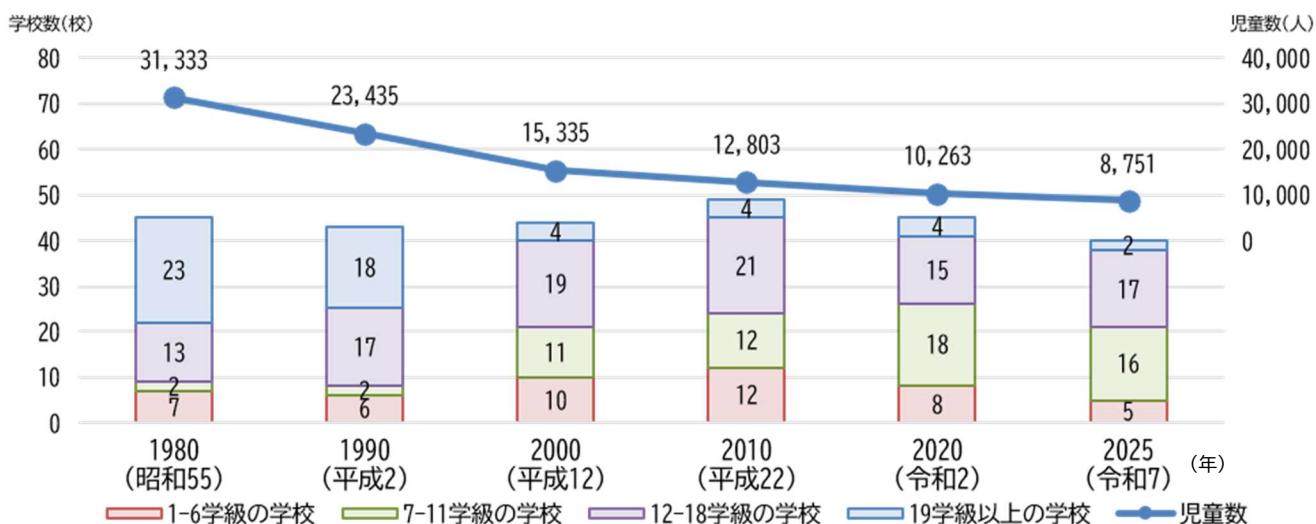


(出典) 函館市「子ども未来部の概要」「社会福祉の概要」

函館市の学齢前児童数および入所（園）児童数は減少を続けていますが，入所（園）率は上昇傾向にあります。

【図 2 3：小学校の児童数ならびに学校数の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活



(出典) 文部科学省「学校基本調査」(2000 (平成 12) 年以前は合併 4 町村を含まない)

函館市の小学校の児童数は減少が続いています。学校数も市町村合併による増加を経て，その後は再び減少傾向にあります。

【図 2 4 : 医療施設数, 病床数および人口 10 万人あたりの率】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

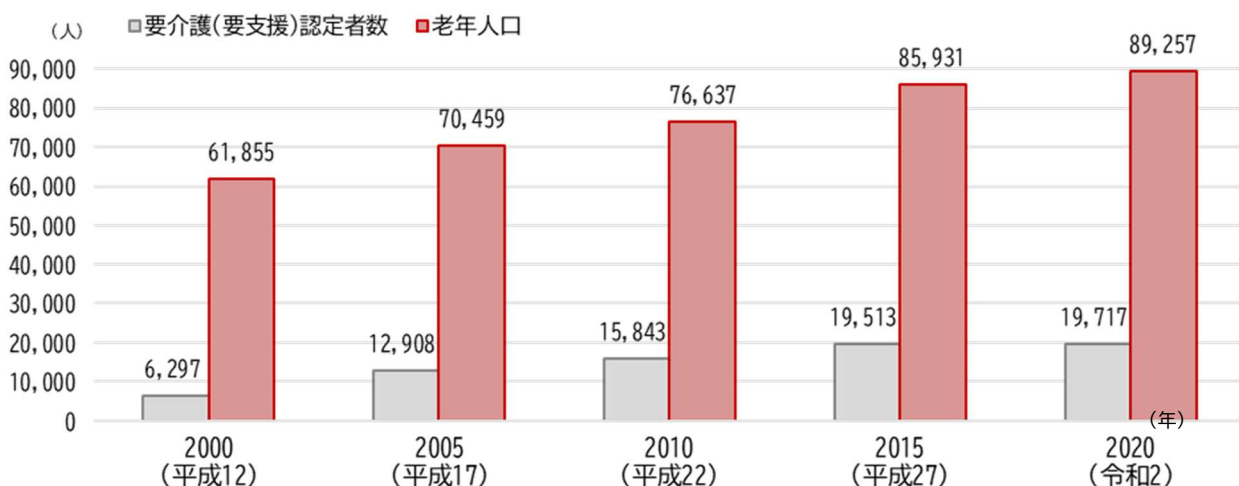
区 分		施設数	人口10万人あたりの施設数		
			函館市	北海道	全 国
病 院		26	11.0	10.4	6.5
一 般 診 療 所		197	83.1	67.5	85.0
歯 科 診 療 所		119	50.2	53.5	53.6
病床 (病院)	精 神 病 床	1,243	524.5	380.6	255.4
	感 染 症 病 床	6	2.5	1.9	1.6
	結 核 病 床	10	4.2	2.1	2.8
	療 養 病 床	800	337.6	359.8	216.9
	一 般 病 床	3,763	1,587.8	1,010.4	710.6
病 床 (一 般 診 療 所)		215	90.7	93.0	58.5

(出典) 函館市「令和 7 年度版 保健所事業概要」 2024 (令和 6) 年 10 月 1 日時点
厚生労働省「令和 6 (2024) 年医療施設 (動態) 調査・病院報告の概況」

函館市の人口 10 万人あたりの病院数や、一般病床をはじめとする多くの病床数は、北海道および全国を上回る水準となっています。一方で、一般診療所の人口 10 万人あたりの施設数は北海道を上回るものの全国を下回っており、歯科診療所の人口 10 万人あたりの施設数は北海道および全国を下回っています。

【図 2 5 : 要介護 (要支援) 認定者数の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活



(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」、総務省「国勢調査」

函館市の要介護 (要支援) 認定者数は、老年人口の増加に伴い、増加傾向が続いています。

【図 2 6 : 身体障害者手帳の交付者数等の比較】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

(単位:人)

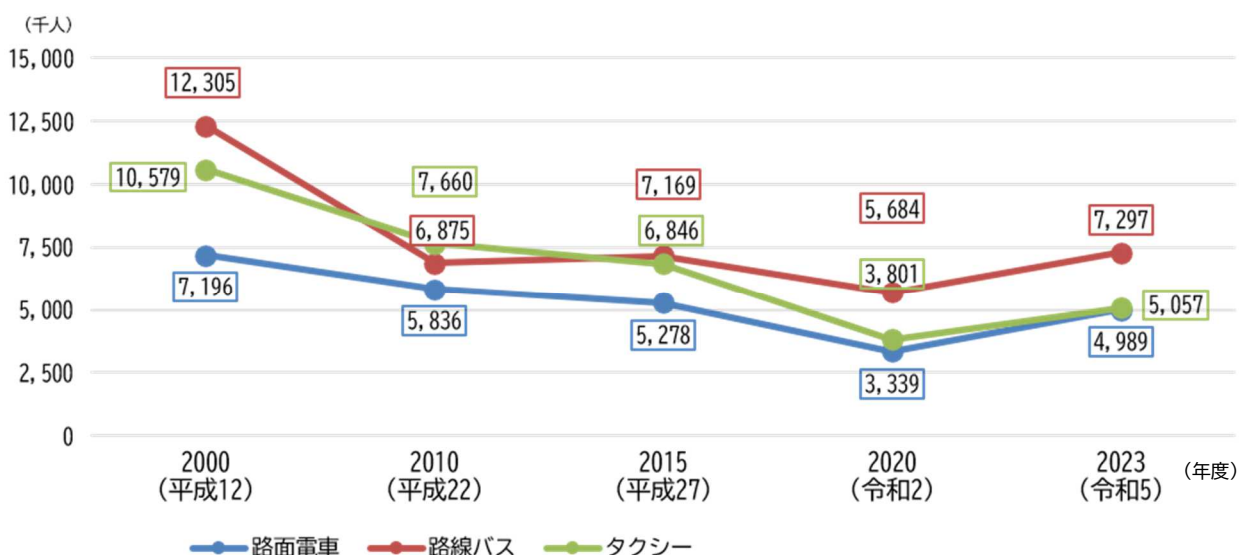
区 分	令和 2 年度(2020 年度) (A)	令和 5 年度(2023 年度) (B)	増 減 (B-A)
身体障害者手帳	12,417	11,581	▲836
療育手帳	3,049	3,173	124
精神障害者保健福祉手帳	3,046	3,180	134
難病	2,298	2,497	199
計	20,810	20,431	▲379

(出典) 函館市「第 7 期函館市障がい福祉計画 (令和 6 年度(2024 年度)~令和 8 年度(2026 年度))」10 ページ

令和 2 (2020) 年度と令和 5 (2023) 年度を比較すると、身体障害者手帳の交付者数は減少しているのに対し、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳および難病 (特定医療費 (指定難病) 受給者証交付者数等) は増加しています。

【図 2 7 : 交通機関別利用者数の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

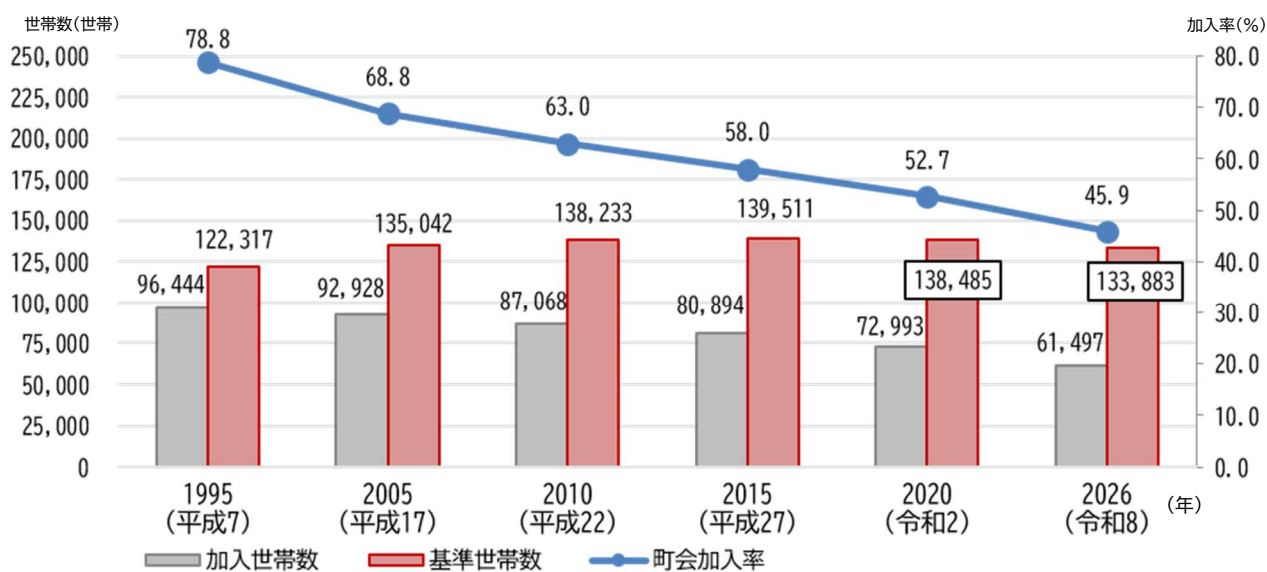


(出典) 函館市

函館市の路面電車、路線バス、およびタクシーの利用者数は減少を続けていますが、新型コロナウイルス感染症の影響があった 2020(令和 2)年度を除いて、2010(平成 22)年度以降は横ばいとなっています。

【図 2 8 : 世帯数と町会加入率の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

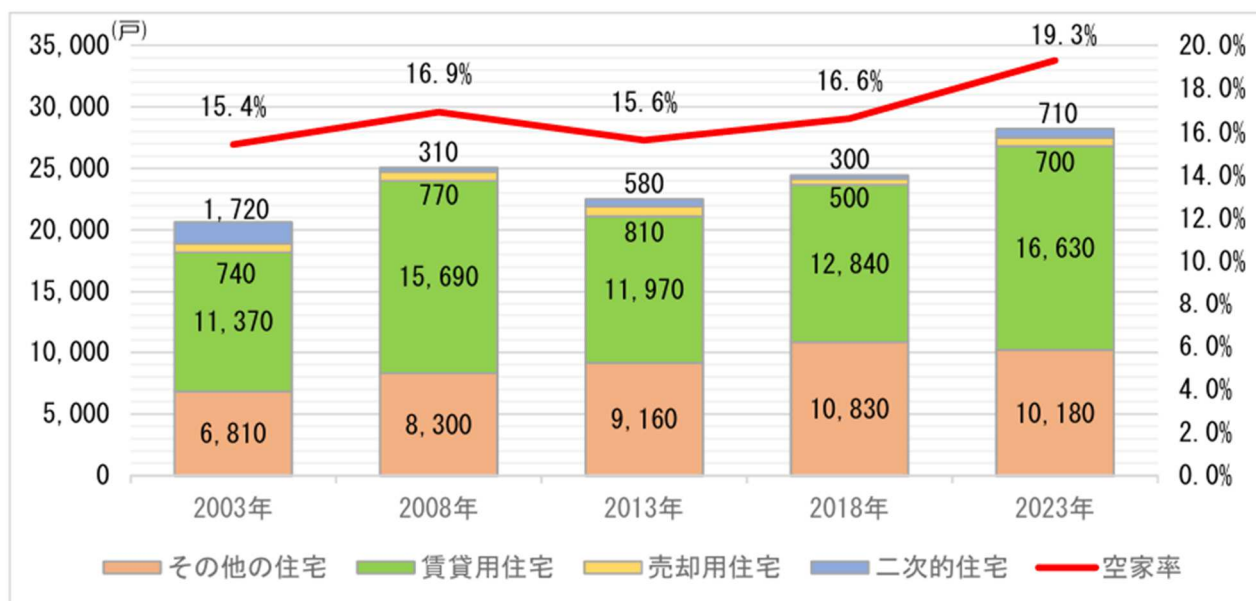


(出典) 函館市

函館市の町会加入率は長期的に低下傾向が続いています。また、全体の基準世帯数が増加していた 2015 (平成 27) 年以前も含め、町会に加入している世帯数そのものも減少が続いています。

【図 2 9：種類別空家の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活



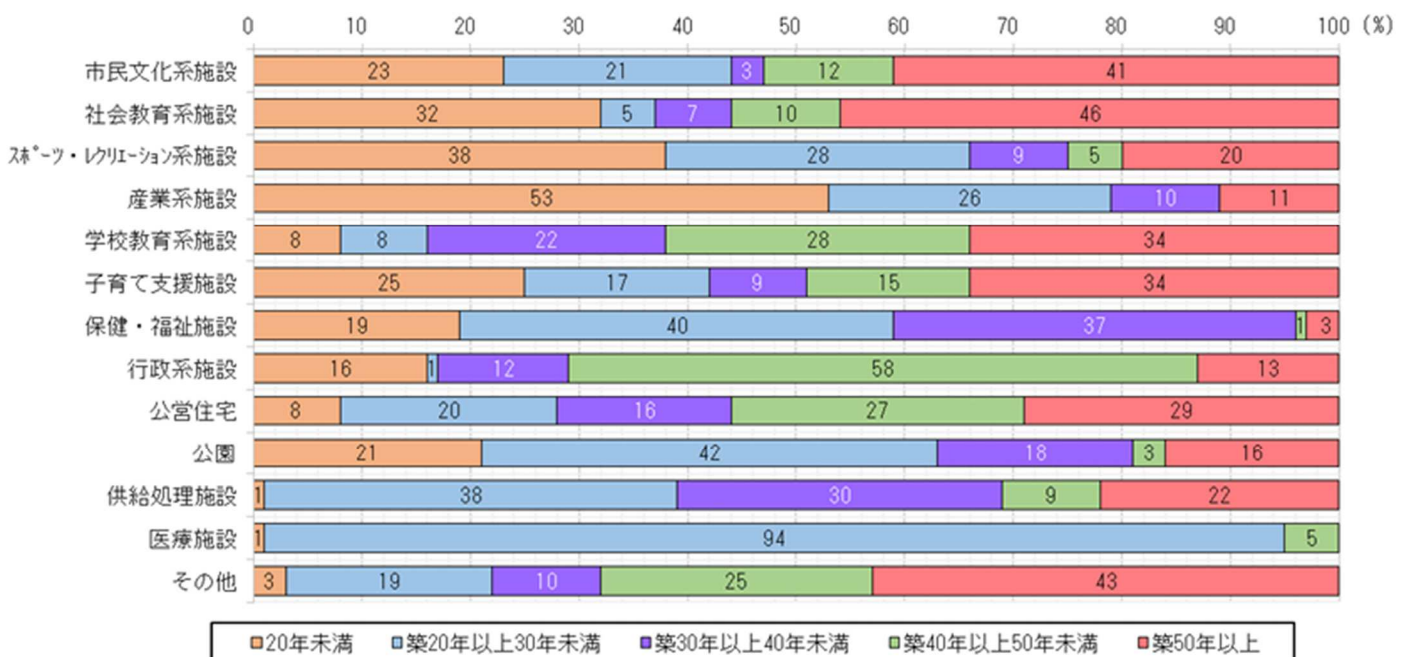
(出典) 総務省統計局「住宅・土地統計調査」(函館市「第3期 函館市空家等対策計画」6 ページより引用)

函館市における種類別の空き家の状況について、「空家率」は長期的にみると増加傾向にあります。また、市場に流通していない空き家である「その他の住宅」は、長期的にみると増加傾向にはありますが、2018（平成30）年をピークに減少に転じています。

【図 3 0：公共施設等 用途分類ごとの経過年数別延床面積の割合等】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

用途分類	延床面積 (㎡)	施設数	主な施設
市民文化系施設	45,109	33	亀田交流プラザ, 芸術ホール, 市民会館など
社会教育系施設	34,226	30	公会堂, 北洋資料館, 箱館奉行所, 中央図書館など
スポーツ・レクリエーション系施設	49,685	27	熱帯植物園, 函館アリーナ, 市民プールなど
産業系施設	19,036	10	計量検査所, 国際水産・海洋総合研究センターなど
学校教育系施設	317,440	59	小学校, 中学校, 市立函館高等学校など
子育て支援施設	8,540	26	保育園, 児童館など
保健・福祉施設	24,426	9	総合保健センター, 老人福祉センターなど
行政系施設	58,982	50	本庁舎, 支所, 消防本部など
公営住宅	368,809	63	市営住宅
公園	7,902	43	管理棟, 便所など
供給処理施設	26,100	9	清掃センター, 七五郎沢廃棄物最終処分場など
医療施設	66,441	3	函館病院, 恵山病院, 南茅部病院
その他	178,429	203	斎場, 公衆便所, 港湾管理事務所, 貸建物など
計	1,205,125	565	



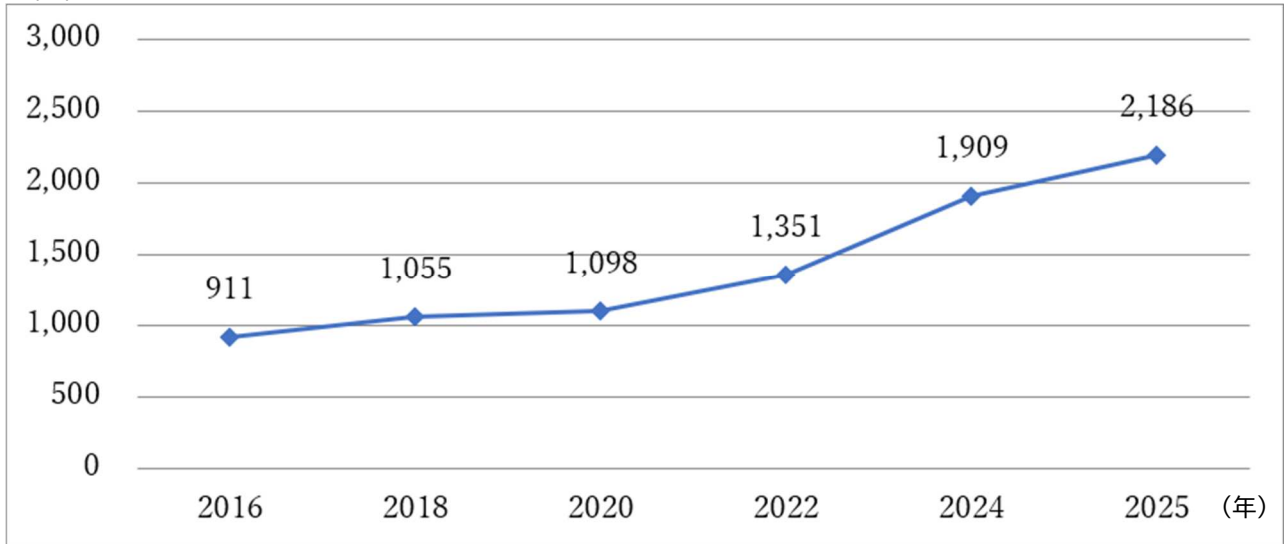
(出典) 函館市「第 2 期 函館市公共施設等総合管理計画」 8～9 ページ

令和 6 (2024) 年度末時点で保有する函館市の公共施設等のうち、延床面積では「公営住宅」(368,809 ㎡) や「学校教育系施設」(317,440 ㎡) が大きな割合を占めています。また、用途分類ごとに築 50 年を経過している施設の割合を見ると、社会教育系施設では 46%、市民文化系施設では 41% を占め、他の用途分類に比べて割合が高い状況にあります。

【図 3 1：外国人人口の推移】

検討資料 P.8 3-1 ウェルビーイングの向上

(人)



(出典) 函館市「住民基本台帳」

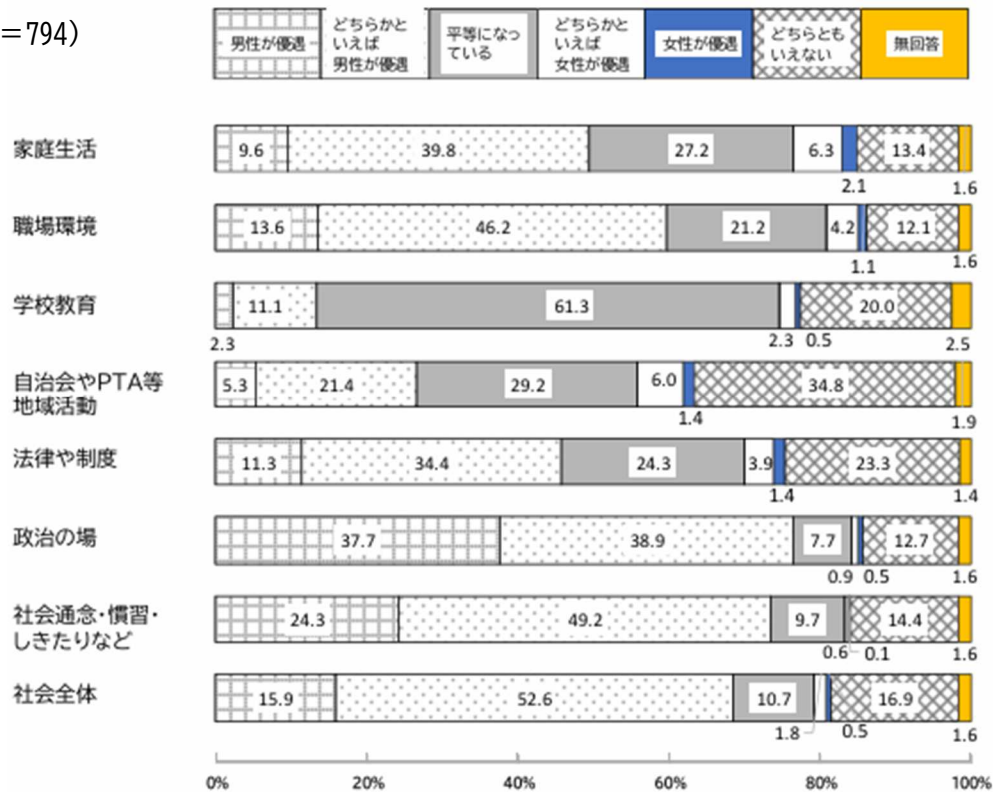
函館市の外国人人口は増加傾向にあり，2025 年は 2,186 人となっています。

【図 3 2：各分野における男女の地位の平等感】

検討資料 P.8 3-1 ウェルビーイングの向上

あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つ)。

(n=794)



	男性優遇			平等になっ ている	女性優遇			どちらとも いえない	無回答
	男性が優遇	どちらかとい えば男性 が優遇	計		どちらかとい えば女性 が優遇	女性が優遇	計		
家庭生活	9.6	39.8	49.4	27.2	6.3	2.1	8.4	13.4	1.6
職場や就業活動	13.6	46.2	59.8	21.2	4.2	1.1	5.3	12.1	1.6
学校教育	2.3	11.1	13.4	61.3	2.3	0.5	2.8	20.0	2.5
自治会やPTA等の地域活動	5.3	21.4	26.7	29.2	6.0	1.4	7.4	34.8	1.9
法律や制度	11.3	34.4	45.8	24.3	3.9	1.4	5.3	23.3	1.4
政治の場	37.7	38.9	76.6	7.7	0.9	0.5	1.4	12.7	1.6
社会通念・慣習・しきたりなど	24.3	49.2	73.6	9.7	0.6	0.1	0.8	14.4	1.6
社会全体	15.9	52.6	68.5	10.7	1.8	0.5	2.3	16.9	1.6

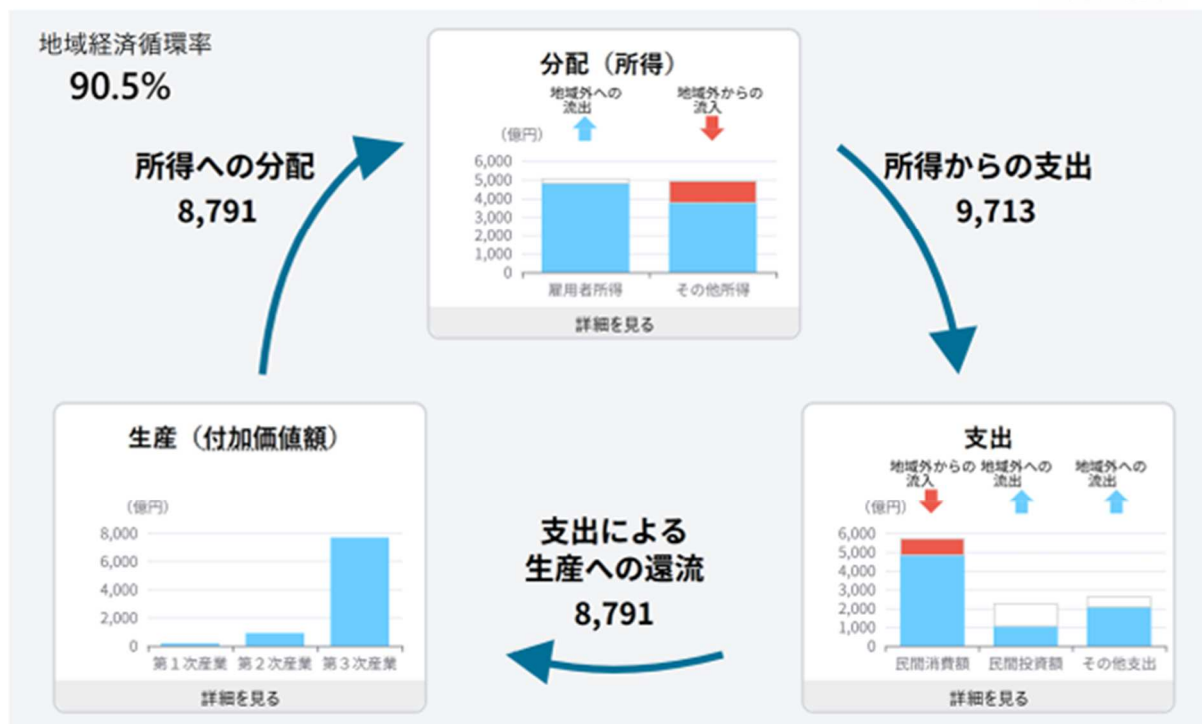
(出典) 函館市「令和3年度 男女共同参画に関する市民・事業者意識調査結果」11 ページ

「平等になっている」と答えた割合は、「学校教育」が61.3%と最も高く、唯一過半数を超えています。次いで、「自治会やPTA等地域活動」(29.2%)、「家庭生活」(27.2%)となっていますが、いずれも30%未満です。その他の分野においては、「男性優遇」が「女性優遇」を大きく上回り、特に「政治の場」、「社会通念、慣習、しきたりなど」、「社会全体」で約7割が「男性優遇」と回答しています。

【図 3 3：地域経済循環図（令和 4（2022）年）】

検討資料 P.8 3-3 地域資源を活かした価値の創出と地域経済の循環

単位：億円



注1：「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。
（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）

注2：他都市参考値（地域経済循環率）

室蘭市：126.9%
苫小牧市：94.7%
帯広市：92.7%
小樽市：85.9%
旭川市：83.4%
網走市：81.2%
釧路市：79.5%
北見市：77.8%

（出典）RESAS（地域経済循環分析）（函館市「経済振興プラン」11 ページより引用）

地域経済循環図では、地域経済の長所と短所を分析し、地域のお金（所得）の流れを生産、分配、支出の三面から「見える化」し、地域経済の全体像や、所得の流入（お金を稼ぐ力・流出額）、地域内の産業間取引（循環構造）を把握することができます。

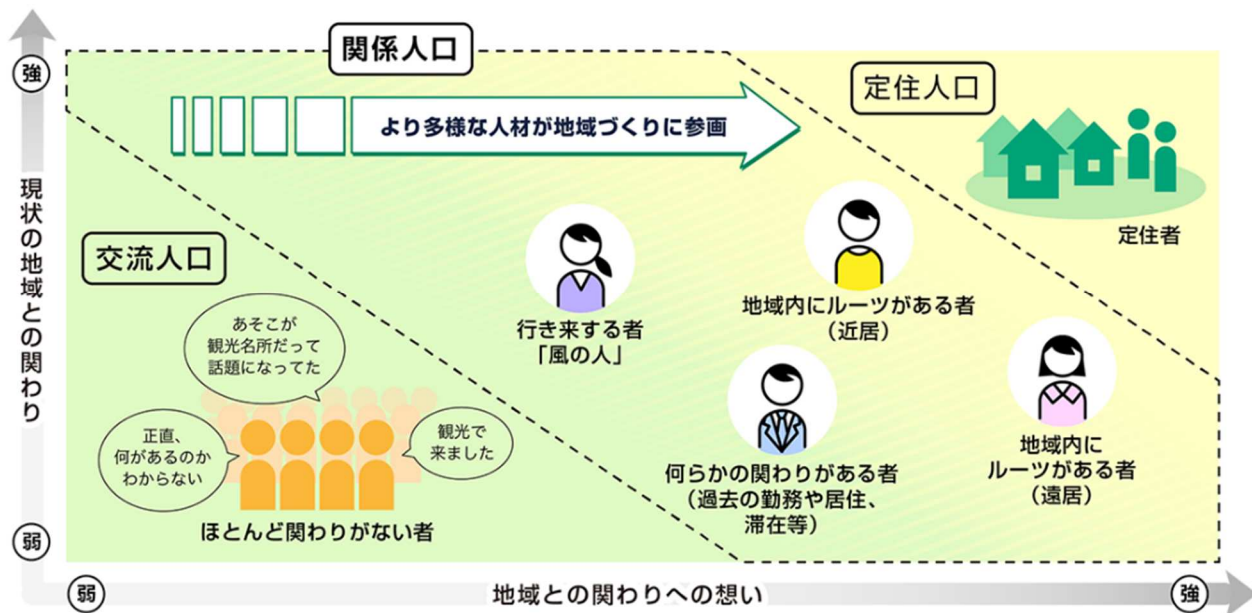
函館市における地域経済循環は、①生産（付加価値額）：8,791 億円に対して、②分配（所得）：9,713 億円で、地域経済循環率（①÷②）は 90.5%となっていますが、これは、③支出において、観光等の消費活動により域外から一定の流入がある反面、地域住民・企業の消費や設備投資の需要が、大きく域外に流出していることが要因と考えられます。

地域経済循環率を上げるためには、①の生産（付加価値額）を上げること、③の支出のうち地域外への流出を減らすことが必要であり、地域経済循環率を上げることが、地域経済の強化に繋がっていくこととなります。

【図 3 4：関係人口】

検討資料 P.12 5-2-(4) ⑫つながりと共創を育む移住・関係人口の創出

参考：イメージ図



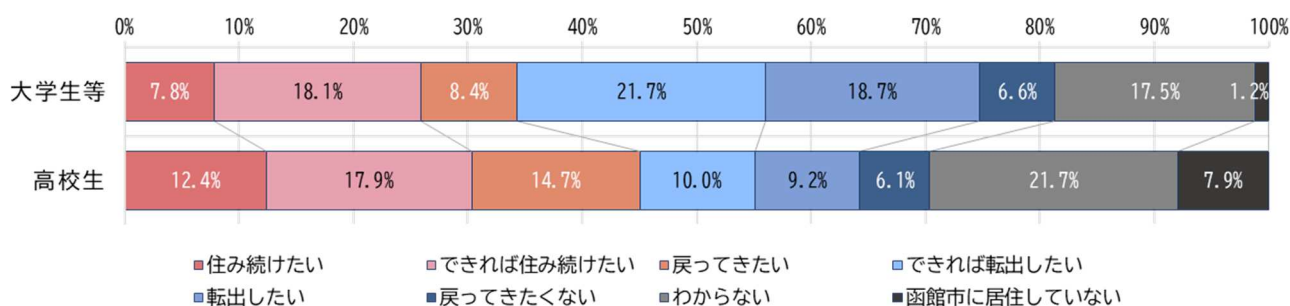
(出典) 総務省ホームページ

本図は、地域との関わりの多様な段階を示すイメージ図です。一時的に地域を訪れる観光客などの「交流人口」と、地域に実際に住んでいる「定住人口」の中間に位置する層を「関係人口」として定義しています。「関係人口」には、地域を頻繁に行き来する人や、過去の勤務や居住などで何らかの関わりがある人、地域内にルーツがある人などが含まれており、こうした多様な人材が地域づくりに参画する層として位置づけられています。

【図 3 5：今後のまちづくりや魅力等についてのアンケート結果】

検討資料 P.4 2-2-(2) 地域資源, P.10~12 5-1 基本方針, 5-2 基本施策
 ※函館市「令和 6 年度 地方創生に関するアンケート調査 地域幸福度 (Well-Being) 指標に関するアンケート調査 結果報告書」(35~43 ページ) より一部抜粋

今後も函館市に住み続けたいと思いますか。または、進学や就職で函館市を離れても、また戻りたいですか。あてはまる番号を 1 つ選んで番号に○をつけてください。



区分	住み続けたい	できれば住み続けたい	戻ってきたい	できれば転出したい	転出したい	戻ってきたくない	わからない	函館市に居住していない	合計
大学生等	13人	30人	14人	36人	31人	11人	29人	2人	166人
	7.8%	18.1%	8.4%	21.7%	18.7%	6.6%	17.5%	1.2%	100%
高校生	114人	165人	135人	92人	85人	56人	200人	73人	920人
	12.4%	17.9%	14.7%	10.0%	9.2%	6.1%	21.7%	7.9%	100%

「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」、「戻ってきたい」を合わせた回答は、大学生等では 34.3%で、高校生では 45.0%であるのに対し、「できれば転居したい」、「転居したい」、「戻ってきたくない」を合わせた回答は、大学生等では 47.0%で、高校生では 25.3%となっています。

「住み続けたい」「戻ってきたい」と思う理由について、次の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。（複数回答）

区分	買い物が便利	市内の移動が便利	市外への移動が便利	まち並みが良い	魅力的な職場がある	魅力的な進学先がある	娯楽・レジャーが楽しめる	愛着がある	治安が良い	気候が良い	実家があるため	その他	n
大学生等	10人 17.5%	8人 14.0%	5人 8.8%	19人 33.3%	3人 5.3%	1人 1.8%	3人 5.3%	38人 66.7%	13人 22.8%	19人 33.3%	21人 36.8%	5人 8.8%	57人
高校生	56人 13.5%	52人 12.6%	9人 2.2%	152人 36.7%	22人 5.3%	16人 3.9%	18人 4.3%	236人 57.0%	72人 17.4%	32人 7.7%	250人 60.4%	13人 3.1%	414人

大学生等では「愛着がある」が66.7%で最も高く、次に「実家があるため」が36.8%、「まち並みが良い」と「気候が良い」が33.3%で続いています。高校生では「実家があるため」が60.4%で最も高く、次に「愛着がある」が57.0%、「まち並みが良い」が36.7%で続いています。

「住み続けたい」「戻ってきたい」と思わない理由について、次の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。（複数回答）

区分	買い物が不便	市内の移動が不便	市外への移動が不便	まち並みが悪い	魅力的な職場がない	魅力的な進学先がない	娯楽・レジャーが楽しめない	愛着がない	治安が悪い	気候が悪い	実家のある地元に戻りたい	その他	n
大学生等	20人 25.6%	34人 43.6%	21人 26.9%	7人 9.0%	30人 38.5%	4人 5.1%	38人 48.7%	8人 10.3%	14人 17.9%	1人 1.3%	20人 25.6%	3人 3.8%	78人
高校生	89人 38.2%	56人 24.0%	25人 10.7%	22人 9.4%	87人 37.3%	85人 36.5%	119人 51.1%	36人 15.5%	23人 9.9%	2人 0.9%	9人 3.9%	11人 4.7%	233人

大学生等では「娯楽・レジャーが楽しめない」が48.7%と最も高く、次に「市内の移動（市電・バス）が不便」が43.6%、「魅力的な職場がない」が38.5%と続いています。

高校生では「娯楽・レジャーが楽しめない」が51.1%と最も高く、次に「買い物が不便」が38.2%、「魅力的な職場がない」が37.3%と続いています。

函館市の魅力や誇れるものは何だと思いますか。主なものを3つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)

項目	20 歳以上 (n=1,343)		大学生等 (n=166)		高校生 (n=920)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
函館の開港の歴史や五稜郭・縄文遺跡などの歴史的財産	573 人	42.7%	82 人	49.4%	413 人	44.9%
函館山からの夜景	775 人	57.7%	62 人	37.3%	618 人	67.2%
教会群や歴史的建造物などの異国情緒あるまち並み	481 人	35.8%	57 人	34.3%	167 人	18.2%
生鮮食料品のおいしさ・充実度	555 人	41.3%	61 人	36.7%	397 人	43.2%
飲食店や菓子店の充実度	66 人	4.9%	22 人	13.3%	75 人	8.2%
身近な温泉施設の立地	248 人	18.5%	19 人	11.4%	97 人	10.5%
港まつりなどの地域におけるイベントの充実度	76 人	5.7%	26 人	15.7%	234 人	25.4%
大学などの高等教育機関があること	18 人	1.3%	15 人	9.0%	11 人	1.2%
医療・福祉が充実していること	59 人	4.4%	5 人	3.0%	31 人	3.4%
作家・芸術家・音楽家などのゆかりの地	20 人	1.5%	2 人	1.2%	16 人	1.7%
教育・文化・芸術・スポーツ・国際交流など盛んな市民活動	19 人	1.4%	11 人	6.6%	23 人	2.5%
海と山が身近にある自然環境	465 人	34.6%	42 人	25.3%	248 人	27.0%
気候による過ごしやすさ	427 人	31.8%	35 人	21.1%	117 人	12.7%
その他	13 人	1.0%	2 人	1.2%	6 人	0.7%
無効・無回答	8 人	0.6%	0 人	0.0%	0 人	0.0%

「函館の開港の歴史や五稜郭・縄文遺跡などの歴史的財産」や「函館山からの夜景」,「生鮮食料品のおいしさ・充実度」については、全世代で多くの人が魅力や誇れるものであると回答しています。

函館のまちに対し、特に満足と思うこと、不満と思うことをそれぞれ教えてください。

※ 複数の分野にわたる意見については重複カウントしているため、意見総数と回答者数は一致しません。

【特に満足と思うこと】

項目	20 歳以上 (n=755)		大学生等 (n=102)		高校生 (n=583)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
函館の住みやすさ	151 件	20.0%	15 件	14.7%	50 件	8.6%
日常の買い物の便利さ	15 件	2.0%	8 件	7.8%	9 件	1.5%
市内の移動（市電・バス）の便利さ	20 件	2.6%	6 件	5.9%	24 件	4.1%
市外への移動（船・飛行機・鉄道）の便利さ	22 件	2.9%	2 件	2.0%	8 件	1.4%
歩行、自転車での道路の使いやすさ	4 件	0.5%	0 件	0.0%	3 件	0.5%
自動車での道路の使いやすさ	11 件	1.5%	1 件	1.0%	2 件	0.3%
医療や福祉の施設やサービス体制	28 件	3.7%	0 件	0.0%	6 件	1.0%
子育て支援	16 件	2.1%	0 件	0.0%	0 件	0.0%
（子どもの）教育環境	2 件	0.3%	1 件	1.0%	1 件	0.2%
雇用の場（業種や企業規模の選択肢）	1 件	0.1%	0 件	0.0%	0 件	0.0%
娯楽・レジャーの充実	3 件	0.4%	5 件	4.9%	7 件	1.2%
食べ物のおいしさ・充実度	125 件	16.6%	15 件	14.7%	135 件	23.2%
歴史・文化資源の保存・活用	49 件	6.5%	9 件	8.8%	24 件	4.1%
観光資源の充実度	89 件	11.8%	12 件	11.8%	89 件	15.3%
都市景観・自然景観	85 件	11.3%	15 件	14.7%	113 件	19.4%
治安	5 件	0.7%	0 件	0.0%	9 件	1.5%
なし	111 件	14.7%	5 件	4.9%	57 件	9.8%
その他	109 件	14.4%	18 件	17.6%	78 件	13.4%
合計	846 件		112 件		615 件	

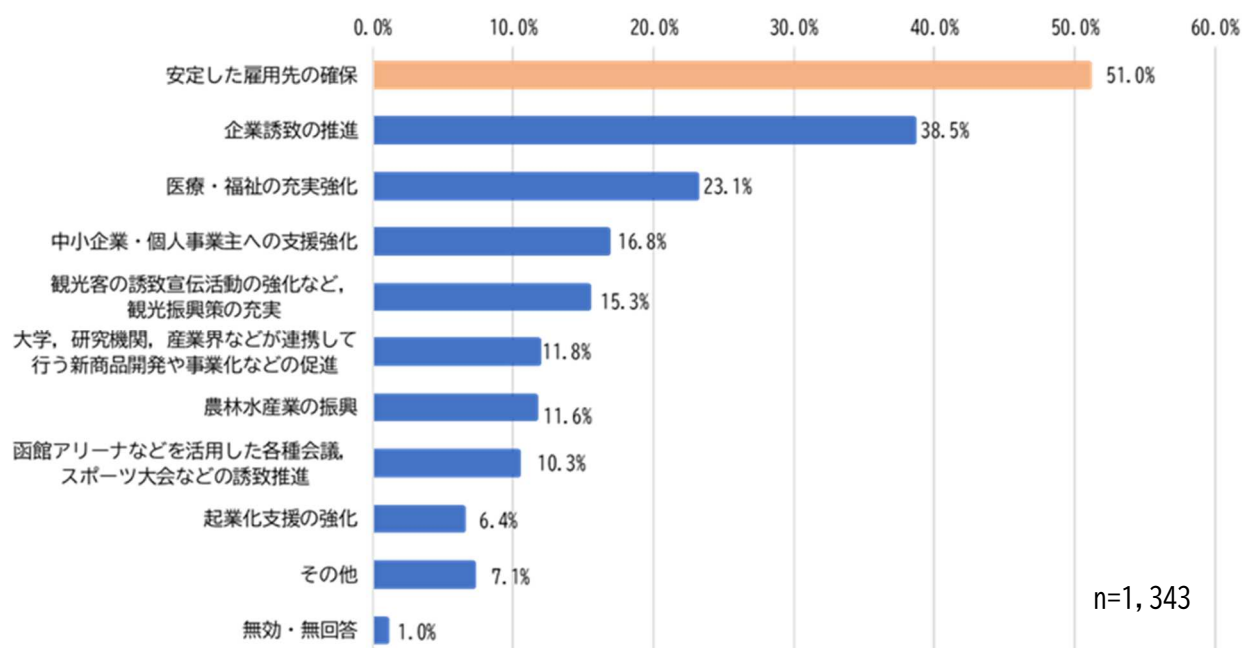
「その他」の主な意見としては、「都市としての規模がちょうど良い」、「まちがコンパクトにまとまっている」、「優しい人が多い」などが挙げられています。

【特に不満と思うこと】

項目	20 歳以上 (n=901)		大学生等 (n=119)		高校生 (n=582)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
函館の住みやすさ	8 件	0.9%	1 件	0.8%	1 件	0.2%
日常の買い物の便利さ	61 件	6.8%	23 件	19.3%	92 件	15.8%
市内の移動（市電・バス）の便利さ	99 件	11.0%	46 件	38.7%	74 件	12.7%
市外への移動（船・飛行機・鉄道）の便利さ	11 件	1.2%	16 件	13.4%	25 件	4.3%
歩行、自転車での道路の使いやすさ	34 件	3.8%	4 件	3.4%	12 件	2.1%
自動車での道路の使いやすさ	55 件	6.1%	5 件	4.2%	15 件	2.6%
医療や福祉の施設やサービス体制	26 件	2.9%	0 件	0.0%	0 件	0.0%
子育て支援	47 件	5.2%	0 件	0.0%	2 件	0.3%
（子どもの）教育環境	27 件	3.0%	1 件	0.8%	50 件	8.6%
雇用の場（業種や企業規模の選択肢）	125 件	13.9%	10 件	8.4%	22 件	3.8%
娯楽・レジャーの充実	172 件	19.1%	34 件	28.6%	223 件	38.3%
食べ物のおいしさ・充実度	8 件	0.9%	1 件	0.8%	1 件	0.2%
歴史・文化資源の保存・活用	0 件	0.0%	0 件	0.0%	0 件	0.0%
観光資源の充実度	32 件	3.6%	2 件	1.7%	6 件	1.0%
都市景観・自然景観	58 件	6.4%	1 件	0.8%	19 件	3.3%
治安	10 件	1.1%	7 件	5.9%	43 件	7.4%
なし	38 件	4.2%	5 件	4.2%	84 件	14.4%
その他	269 件	29.9%	9 件	7.6%	60 件	10.3%
合計	1,080 件		165 件		729 件	

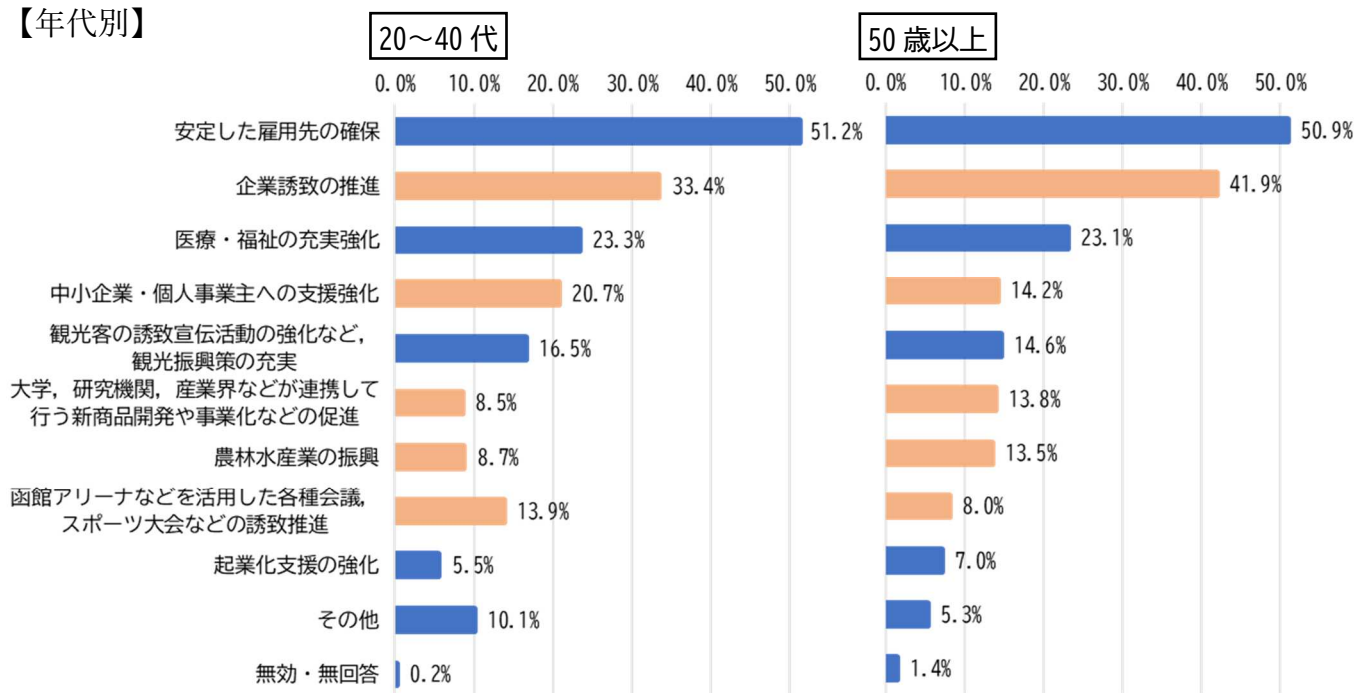
「その他」の主な意見としては、「人口減少と高齢化が急激に進んでいる」、「全体的に活気がない」、「自動車・自転車の運転マナーが悪く危険である」、「若い人が住みたいと思うような魅力がない」、「冬場の除雪状況が悪い」、「税金が高い」などが挙げられています。

函館市の経済を活性化するために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。
 主なものを2つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)



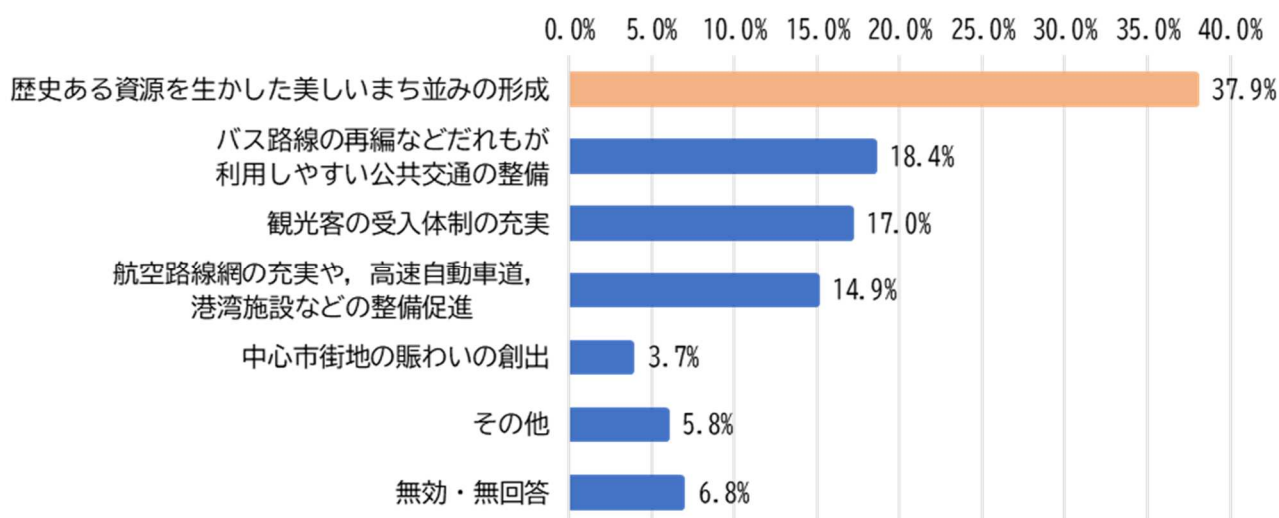
「安定した雇用先の確保」が51.0%と最も高く、「企業誘致の推進」が38.5%と続いています。「その他」の内容としては「商業施設、娯楽施設の充実」、「子育て支援の充実」、「野外フェスやコンサートの誘致」等が挙げられています。

【年代別】



年代別では、「企業誘致の推進」、「中小企業・個人事業主への支援強化」、「大学、研究機関、産業界などが連携して行う新商品開発や事業化などの促進」、「農林水産業の振興」、「函館アリーナなどを活用した各種会議、スポーツ大会などの誘致推進」で概ね5ポイント以上の差がありました。

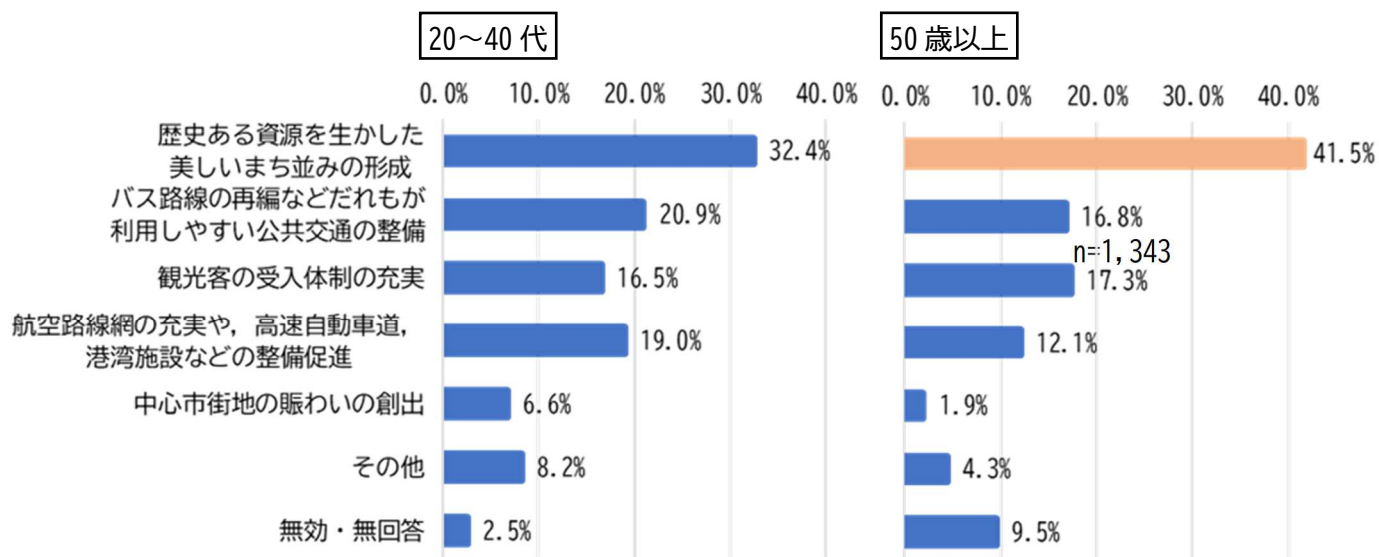
まちの魅力を高めるために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。主なものを2つまで選んで番号に○をつけてください。（複数回答）



「歴史ある資源を生かした美しいまち並みの形成」が37.9%と最も高く、次に「バス路線の再編などだれもが利用しやすい公共交通の整備」が18.4%となっています。

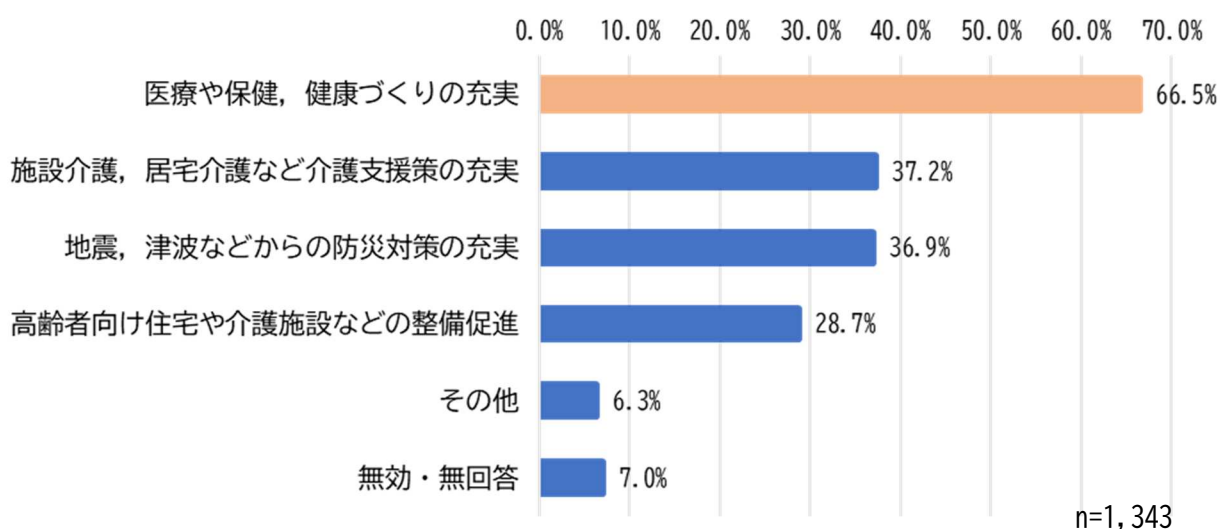
「その他」の内容としては、「観光客だけではなく地元住民も楽しめる施設の充実」、「商業施設、娯楽施設の充実」等が挙げられています。

【年代別】



50歳以上では、20～40代に比べて「歴史ある資源を生かした美しいまち並みの形成」が特に高くなっています。

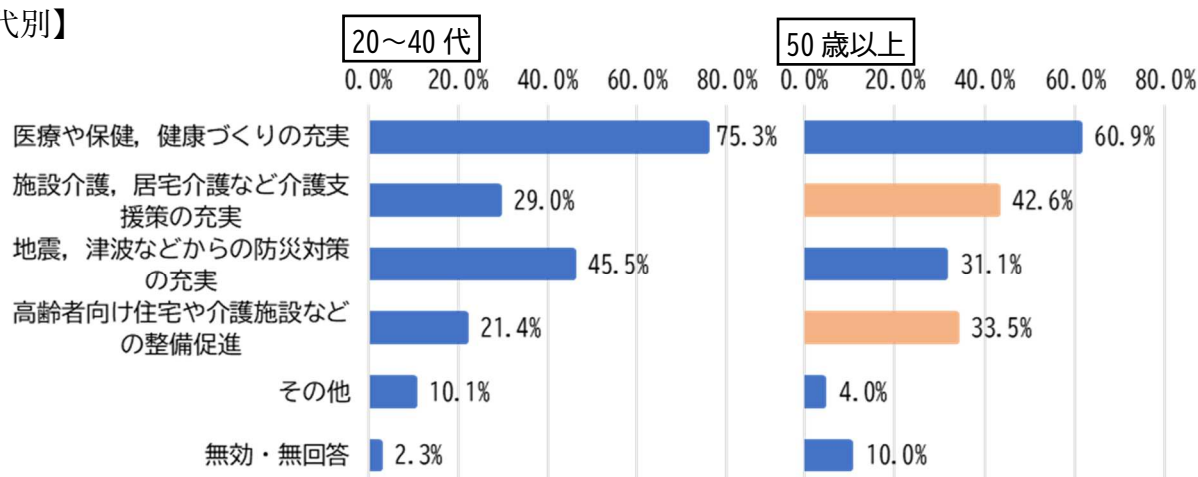
だれもが安心して住めるまちづくりを進めるために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。主なものを2つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)



「医療や保健, 健康づくりの充実」が 66.5%と最も高く, 次に「施設介護, 居宅介護など介護支援策の充実」が 37.2%となっています。

「その他」の内容としては福祉に関する回答の他, 「安定した雇用先の確保」, 「子育て支援の充実」, 「防犯対策の拡充」等も挙げられています。

【年代別】



50歳以上では「施設介護, 居宅介護など介護支援策の充実」, 「高齢者向け住宅や介護施設などの整備促進」を選択する割合が高くなっています。

下表は、アンケート調査票の自由意見欄に記入された内容を、令和元（2019）年度に策定した「第2期函館市活性化総合戦略」の具体的な施策別にまとめたものです。

※ 複数の分野にわたる意見については重複カウントしているため、意見総数と回答者数は一致しません。

3つの 基本目標	具体的な施策	20歳以上 (n=563)		大学生等 (n=55)		高校生 (n=196)	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
市民一人 ひとりの 幸せを大切に します	地域で見守り支える福祉拠点づくり	20件	3.6%	0件	0.0%	1件	0.5%
	健康で元気に生活できる環境づくり	25件	4.4%	1件	1.8%	1件	0.5%
	出産・子育てへの支援強化	116件	20.6%	6件	10.9%	31件	15.8%
	ひとり親家庭等への支援強化	8件	1.4%	0件	0.0%	1件	0.5%
	地域の将来を担う人づくり	28件	5.0%	3件	5.5%	6件	3.1%
	いじめや虐待の未然防止・早期発見・早期対応	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
	教育環境の充実	43件	7.6%	3件	5.5%	20件	10.2%
函館の 経済を支え 強化します	観光客等の増加をめざす取組	84件	14.9%	4件	7.3%	17件	8.7%
	ITやロボットなど先端技術を活用した生産性の向上	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
	食を支える安心・安全な農水産物の生産・供給支援のほか、食の魅力を高め、多くのひとを呼び込み販路拡大につなげる支援	4件	0.7%	0件	0.0%	0件	0.0%
	誰もが生き生き働くことができる環境整備	246件	43.7%	16件	29.1%	16件	8.2%
快適で 魅力ある まちづくり を進めます	デザイン性の高い町並みの整備やにぎわい空間の創出	40件	7.1%	14件	25.5%	11件	5.6%
	交通アクセスの向上	28件	5.0%	2件	3.6%	1件	0.5%
	災害に強く安心・安全なまちへの体制強化	9件	1.6%	4件	7.3%	0件	0.0%
	公共交通の充実	28件	5.0%	10件	18.2%	6件	3.1%
	文化・スポーツの振興	2件	0.4%	2件	3.6%	1件	0.5%
	環境にやさしいまちの推進	2件	0.4%	0件	0.0%	2件	1.0%
	移住・定住を検討している方への魅力発信	24件	4.3%	4件	7.3%	7件	3.6%
	行政事務の効率化と市民の利便性向上	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
その他(※)		155件	27.5%	12件	21.8%	73件	37.2%
特になし		11件	2.0%	2件	3.6%	39件	19.9%
合 計		873件		83件		233件	

20歳以上および大学生等では、ともに「誰もが生き生き働くことができる 環境整備」に関する意見が最も多く、それぞれ43.7%、29.1%となっています。高校生では「出産・子育てへの支援強化」が15.8%と最も多くなっています。

※ 「その他」の主な意見としては、「レジャー・娯楽施設が少ない」、「若者が函館に残りたいと思えるようなまちにして欲しい」、「観光客だけでなく、市民に対する施策を充実させるべき」などが挙げられています。